

**令和 5 年度
教育に関する事務の
管理及び執行の状況の
点検・評価報告書**

令和 6 年 8 月

岡山県津山市教育委員会

— 目 次 —

	ページ
I 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について	1
1 点検及び評価の導入の目的	1
2 対象事業と点検・評価の方法	1
3 学識経験者による知見の活用	2
— 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）	2
II 令和5年度教育委員会の活動状況	3
1 教育委員	3
2 教育委員会会議の開催状況	4
3 教育委員会議決案件	4
4 教育委員会協議案件	5
5 教育委員会傍聴者の状況	6
6 教育委員協議会の開催状況	6
7 各懇談会	6
8 教育委員会会議以外の活動状況	8
III 各施策の点検・評価	11
津山市教育振興基本計画に基づく方向性と施策（一覧）	11
【教育活動の推進・充実】	
（1）自立	
ア. 主体的に学ぶ意欲の育成	14
イ. 確かな学力の向上	23
ウ. 健やかな心と体の育成	31
（2）つながり	
ア. 自他を尊重する心の育成	44
イ. 人や地域との豊かな人間関係の構築	47
ウ. 道徳性や規範意識の醸成	51
（3）郷土愛	
ア. 津山の歴史・伝統・文化などを大切にする心の育成	55
イ. ふるさと津山に誇りと愛着を持ち、 地域や社会に貢献できる人の育成	57
【教育活動の改善・充実】	
教育活動を支える環境づくり	
ア. 安全・安心な学校づくり	59
イ. 良好な教育環境の維持・向上	63
ウ. 総合的な連携体制の構築	68
IV 学識経験者の総評	70
服部 康正（元小学校校長）	70
福田 邦夫（津山市教育振興基本計画（第2期）検討委員会委員）	74
V 今後の教育委員会の対応の方向性	76
VI 資料	
（1）令和5年度津山市教育行政重点施策の体系	80
（2）令和5年度教育予算の内訳	81
（3）令和5年度教育委員会の組織機構と事務分掌	84

I 教育に関する事務の管理及び

執行の状況の点検・評価について

I 点検及び評価の導入の目的

教育委員会は、首長から独立した合議制の執行機関です。創造的で人間性豊かな人材を育成するため、生涯学習の推進をはじめ、教育、文化、スポーツの振興など幅広い分野にわたる教育行政を一体的に推進していく上で、教育委員会制度は重要な役割を担っています。そして、教育委員会が協議決定した教育方針と施策について、教育長が統括する事務局が広範かつ専門的な教育行政事務を執行するものです。

このようなことから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(地教行法)※1により、教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすものです。また、同時に令和4年3月に策定した「第3期津山市教育振興基本計画」(計画実施年度 令和4年度～令和7年度)の、定期的な点検と進捗管理を毎年度行います。

2 対象事業と点検・評価の方法

(1) 対象事業

津山市教育委員会が策定した「令和5年度教育行政重点施策」への取組並びに達成状況について、項目別に点検・評価を行いました。

(2) 評価方法

第3期津山市教育振興基本計画に基づく方向性、基本目標、取組に合わせた各項目別に【具体的施策と実施状況】【目標指標とその達成状況】【課題】【今後の方向性】を記載しています。

【具体的施策と実施状況】は「施策の実施概要とその結果」を、【目標指標とその達成状況】は、第3期津山市教育振興基本計画にて設定された「取組目標とその結果」を記載しています。

また、【課題】は令和5年度取組実施においての問題点などについて、【今後の方向性】は令和6年度以降の取組についての方向性等を記載しています。

【目標指標とその達成状況】の見方と項目の説明

計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値
利用者の満足度 (幼稚園2センター分の平均)	90% 【R2】	92%	97%

第3期教育振興基本計画で設定した主な取組に対する指標の内容。1つの取組に複数指標があるものはそれぞれ記載。

計画策定時の現況値：
⇒ 特に記載がない場合は R3 実績

R5 目標値：
R5 年度における目標値

R5 現況値
⇒ R5 年度末の結果。
事業の中止、統計の中止等、達成率の算出が不可能であるものは「未測定」と表記

(3) 点検・評価の期日

令和6年3月31日

(4) 報告・公表

令和6年9月津山市議会へ報告し、津山市教育委員会ホームページに掲載するとともに事務局での閲覧を行います。

3 学識経験者による知見の活用

点検・評価にあたっては、地教行法第26条第2項の規定により教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされているため、外部評価者2名の総評を付し、点検・評価の客観性を確保しています。

※1 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年6月30日法律第162号） 抜粋

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

Ⅱ 令和５年度教育委員会の活動状況

Ⅰ. 教育委員

氏 名	役 職	委員就任年月日	任 期
ありもと あきひこ 有本 明彦	教育長	平成30年 4月 1日	平成30年 4月 1日 ～令和7年 3月 31日 (3期目)
みつおか ひろふみ 光岡 宏文	教育長職務代理者 (令和5年 4月 1日 ～令和6年 3月 31日)	平成30年 12月 25日	平成30年 12月 25日 ～令和8年 12月 24日 (2期目)
やくしじ あきこ 薬師寺 明子	委 員	令和2年 10月 1日	令和2年 10月 1日 ～令和6年 9月 30日
ど い まさひろ 土居 道宏	委 員	令和3年 4月 1日	令和3年 4月 1日 ～令和7年 3月 31日
しまだ みほ 島田 美保	委 員	令和5年 12月 25日	令和5年 12月 25日 ～令和9年 12月 24日
ふくみ ひろし 福見 弘	委 員	令和元年 12月 25日	令和元年 12月 25日 ～令和5年 12月 24日

2. 教育委員会会議の開催状況

(定例会・・・「定」、臨時会・・・「臨」)

月 日	定・臨	教育長等の報告	議 案	協 議	報 告	その他
4月27日	定	0	9	0	5	3
5月29日	定	0	5	1	2	4
6月27日	定	0	3	0	7	3
7月27日	定	0	1	0	2	5
8月23日	定	1	2	0	4	4
9月28日	定	0	3	0	3	2
10月26日	定	0	0	0	4	3
10月26日	臨	0	1	0	0	0
11月21日	定	1	0	0	2	6
12月20日	定	2	2	0	4	3
1月25日	定	0	0	1	1	5
2月22日	定	2	1	0	2	4
3月12日	臨	0	1	0	0	0
3月21日	定	0	0	0	2	3
合 計		6	28	2	38	45

※定例会12回、臨時会2回開催

3. 教育委員会議決案件

※（非）は非公開とした案件

月 日	議 決 案 件
4月27日	① 津山市社会教育委員の委嘱等について ② 令和5年度校務を分担する主任等の発令について ③ 津山市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱等について ④ 津山市いじめ問題専門委員会委員の委嘱について ⑤ 津山市特別支援教育推進センター所長等の指名について ⑥ 津山市教育支援委員会委員の委嘱について ⑦ 津山市教育支援委員会教育支援専門員の委嘱等について ⑧ 津山市地域学校協働活動推進員の委嘱について ⑨ 津山市立小中学校運営協議会委員の任命について
5月29日	① 令和5年度津山市教育行政重点施策の策定について ② 令和5年度津山市立小・中学校学校評議員の委嘱について ③ 津山市学校運営協議会の設置等に関する規則の一部改正について ④ 津山市教育支援委員会規則の一部改正について ⑤ 津山市青少年育成センター運営審議会委員の委嘱及び解嘱について

月 日	議 決 案 件
6月27日	① 津山市部活動等の在り方検討及び地域連携・地域移行推進会議委員の委嘱について ② 津山市教育相談センター鶴山塾運営委員会委員の委嘱及び解嘱について ③ 津山市青少年育成センター運営審議会委員の委嘱及び解嘱について
7月27日	① 津山市立学校職員服務規程の一部を改正する訓令について
8月23日	① 令和4年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書について ② 教科書採択について（非）
9月28日	① 津山市青少年育成センター運営審議会委員の委嘱について ② 津山市教育相談センター鶴山塾運営委員会委員の委嘱について ③ 令和6年度津山市立幼稚園の定員について
10月26日	① 津山市立中学校長等の行政措置について（非）
12月20日	① 令和5年度末津山市立小中学校教職員人事異動方針について ② 津山市教育相談センター鶴山塾運営委員会委員の委嘱及び解嘱について
1月25日	① 津山市立学校整備審議会規則等の一部改正について
2月22日	① 津山市立幼稚園通園バスの利用に関する要綱の一部改正について
3月12日	① 令和5年度末津山市立学校教職員人事異動について（非）
3月21日	① 第5次津山市子ども読書活動推進計画～つやまっ子読書プラン～の策定について ② 令和6年3月定例市議会の質問答弁要旨について

4. 教育委員会協議案件

※（非）は非公開とした案件

月 日	協 議 案 件
4月27日	令和5年度教育委員による学校訪問について 令和5年度重点施策について 英語デジタル教科書活用実証研究事業について
5月29日	学校水泳授業の民間等プール試行について 令和4年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価報告書の作成について
6月27日	民間プールを利用した水泳の授業について

月 日	協 議 案 件
7月27日	令和5年度公立幼稚園の定員について 津山市立小中学校の体制整備の基本方針について 民間施設を活用した水泳授業の試行についてアンケート中間報告（抜粋） 令和4年度津山市教育行政点検・評価書について 令和5年度教育委員による学校訪問（2学期）について 令和5年度全国・岡山県学力・学習状況調査の結果（速報）について
8月23日	民間等施設を活用した水泳授業の試行について 津山市立小中学校の体制整備の基本方針について（今後のスケジュール等） 損害賠償請求事件訴訟について 部活動の在り方検討及び地域連携・地域移行について 不登校特例校の設置検討に係るスケジュールについて
9月28日	教育委員会における取組報告について 新野小職員の今後の処遇について 市内中学校における生徒用グーグルアカウントの校内漏洩及び不正アクセスの発生について
10月26日	令和5年度津山市教育委員行政視察について 津山市立小中学校の体制整備説明会の実施状況について 「令和5年度つやま元気大賞」選考結果及び表彰について 小中学校におけるインフルエンザによる臨時休業の状況について
11月21日	令和6年度津山市立幼稚園の入園申し込みの状況について 学びの可視化事業の進捗状況について 学校訪問等における振り返りについて 令和5年度末津山市立小・中学校教職員人事異動方針（案）について 学びの多様化学校設置に関するアンケート集計結果について
1月25日	公立幼稚園通園バスの利用に関する要綱の一部改正について 学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）設置に向けて
2月22日	指定学校変更及び区域外就学に関する取扱要綱の一部改正について
3月21日	令和6年度重点施策について 学びの多様化学校の設置に向けて 学校教育課令和5年度重点取組の成果と課題及び令和6年度重点取組（案）について 「今後の津山市立小中学校の学校運営の在り方について」（答申）を踏まえた今後の市教委の対応について

5. 教育委員会傍聴者の状況

月 日	内 容
4月27日	4月定例教育委員会 傍聴者2名
5月29日	5月定例教育委員会 傍聴者1名
6月27日	6月定例教育委員会 傍聴者3名
7月27日	7月定例教育委員会 傍聴者3名
8月23日	8月定例教育委員会 傍聴者4名
9月28日	9月定例教育委員会 傍聴者4名
10月26日	10月定例教育委員会 傍聴者1名
11月21日	11月定例教育委員会 傍聴者4名
12月20日	12月定例教育委員会 傍聴者4名
1月25日	1月定例教育委員会 傍聴者1名
2月22日	2月定例教育委員会 傍聴者4名
3月21日	3月定例教育委員会 傍聴者2名

6. 教育委員協議会の開催状況

月 日	協議題数	月 日	協議題数	月 日	協議題数
4月27日	3	5月29日	2	6月27日	1
7月27日	6	8月23日	5	9月28日	3
10月26日	4	11月21日	5	1月25日	2
2月22日	1	3月21日	4		

※11回開催

7. 各懇談会

月 日	内 容
7月24日	PTA 連合会（西ブロック）との懇談会
7月26日	PTA 連合会（東ブロック）との懇談会
8月 7日	PTA 連合会（中央ブロック）との懇談会
1月25日	社会教育委員との懇談会

8. 教育委員会会議以外の活動状況

(1) 学校訪問

月 日	訪 問 校 及 び 訪 問 施 設	
	小・中学校	小・中学校以外の施設
6月5日	秀実小学校、佐良山小学校、向陽小学校	
6月19日	広野小学校、勝加茂小学校、広戸小学校	
7月 4日	北小学校、鶴山中学校	鶴山塾
10月2日	中道中学校、河辺小学校	つやま西幼稚園
10月30日	高田小学校、高野小学校、津山東中学校	
11月30日	加茂中学校	つやま東幼稚園
2月 8日	高野小学校、高倉小学校	

※小学校12校、中学校4校、教育関係施設3施設

(2) 行事等

月 日	行 事 名
11月14日	第55回津山市子どもまつり（つやまプレーパーク）

(3) 入学(園)式・卒業式

月 日	内 容
4月10日	市内27小学校入学式
4月11日	市内8中学校入学式
4月12日	つやま西幼稚園、つやま東幼稚園入園式
3月12日	市内8中学校卒業式
3月18日	つやま西幼稚園、つやま東幼稚園卒園式
3月19日	市内27小学校卒業式

(4) 会議・総会・研修会（教育長会議を含む）

月 日	会議・研修名	場 所
5月 8日	岡山県都市教育長協議会	アルネ・津山
5月18日 ～5月19日	全国都市教育長協議会定期総会	帯広市
5月25日	美作地区市町村教育委員会5月定例教育長会議	津山教育事務所
5月25日	岡山大学と教育委員会との 第1回岡山県北地域教育プログラム協議会	津山教育事務所

月 日	会議・研修名	場 所
6月12日 ～7月4日	令和5年6月津山市議会定例会 本会議・総務文教委員会	津山市議会
6月29日	美作地区市町村教育委員会連絡協議会春季研修会	鏡野町立中央公民館
7月6日	美作地区市町村教育委員会7月定例教育長会議	新庄村
7月27日	令和5年度第1回津山市総合教育会議	津山市役所第1委員会室
8月28日 ～9月27日	令和5年9月津山市議会定例会 本会議・総務文教委員会	津山市議会
8月29日	美作地区市町村教育委員会8月定例教育長会議	w e b 会議
9月28日	美作地区市町村教育委員会9月定例教育長会議	美咲町
10月26日	美作地区市町村教育委員会10月定例教育長会議	津山教育事務所
11月24日	美作地区市町村教育委員会連絡協議会秋季研修会	鏡野町立中央公民館
11月27日 ～12月19日	令和5年12月津山市議会定例会 本会議・総務文教委員会	津山市議会
11月30日	美作地区市町村教育委員会11月定例教育長会議	津山教育事務所
12月20日	令和5年度第2回津山市総合教育会議	津山市役所第1委員会室
1月10日	美作地区市町村教育委員会1月定例教育長会議	津山教育事務所
2月1日	美作地区市町村教育委員会2月定例教育長会議	w e b 会議
2月1日	岡山大学と教育委員会との 第2回岡山県北地域教育プログラム協議会	津山教育事務所
2月22日	令和5年度第3回津山市総合教育会議	津山市役所第1委員会室
2月26日 ～3月19日	令和5年3月津山市議会定例会 本会議・総務文教委員会	津山市議会
3月5日	美作地区市町村教育委員会3月定例教育長会議	w e b 会議

(5) 定期発行冊子等

発 行 名	発行担当課	内 容
令和5年度教育行政重点施策	教育総務課	教育委員会の基本方針、具体的施策等を紹介。年1回発行。
令和4年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書	教育総務課	教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況を点検・評価したもの。年1回発行。
津山市教育委員会広報誌 津山市教育委員会通信	教育総務課	教育委員会や教育関係施設の活動を紹介したもの。毎月発行。
令和5年度「津山市の教育（教育要覧）」	教育総務課	令和5年度の津山市の教育概要を紹介したもの。年1回発行。
教育相談だよりNOW	次世代育成課 (鶴山塾)	鶴山塾の教育相談状況などを紹介したもの。(教職員向け) 年1回発行。

◇令和5年度外部評価者（本報告書の作成に係る学識経験者）

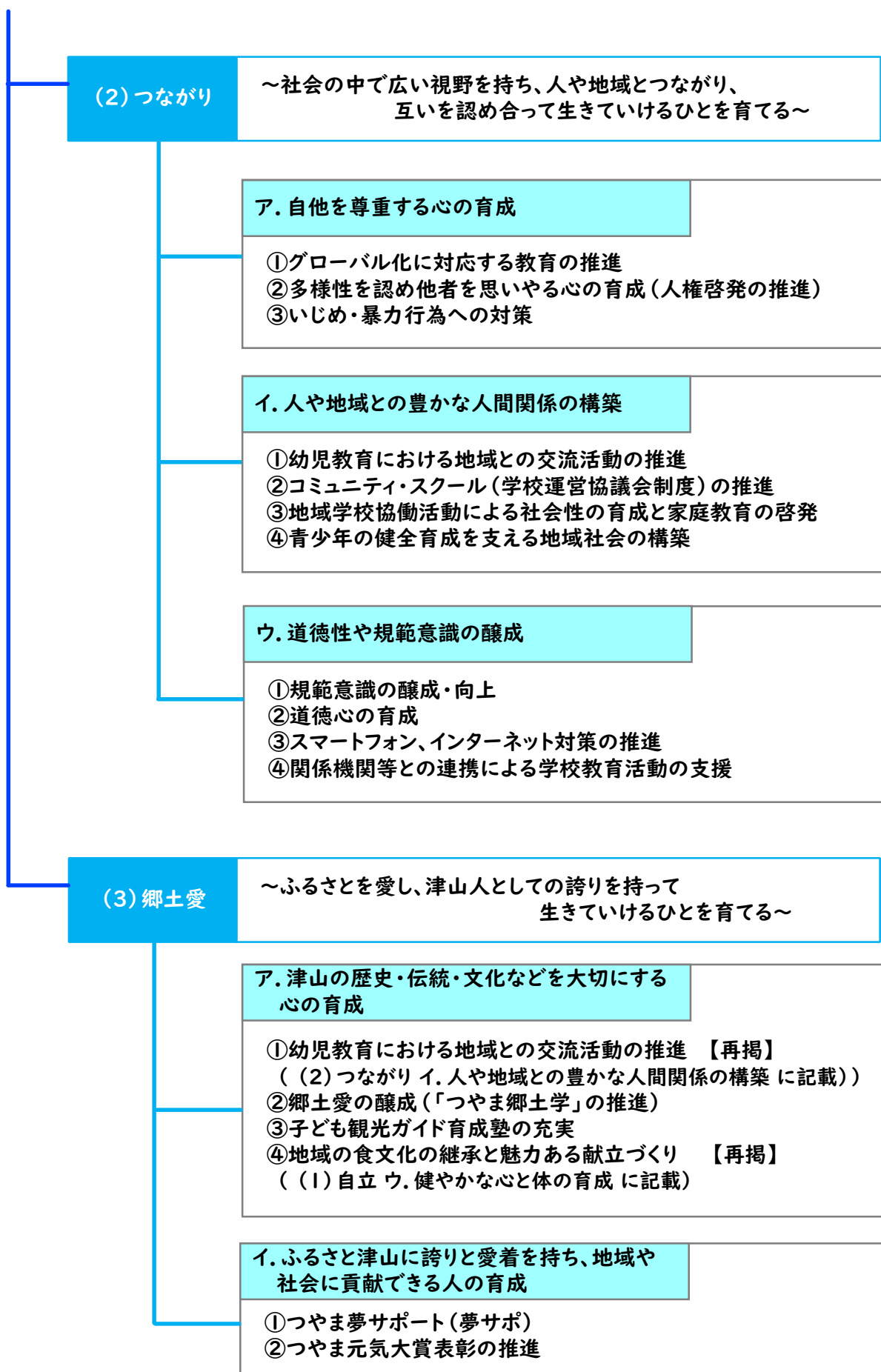
氏 名	所属等
服部 康正	元小学校長
福田 邦夫	津山市教育振興基本計画（第2期）検討委員会委員

Ⅲ 各施策の点検・評価

津山市教育振興基本計画に基づく方向性と施策（一覧）

基本的方向性Ⅰ	教育活動の推進・充実
(Ⅰ) 自立	～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～
	ア. 主体的に学ぶ意欲の育成
	①質の高い幼児教育の提供 ②個別最適な学びと協働的な学びのためのICT教育の推進 ③ICTを活用した先進的な授業展開のあり方の調査・研究 ④主体的・対話的で深い学びを実現する学力向上対策の推進 ⑤小学校第1学年の落ち着いた学習環境の整備 ⑥少人数指導の充実 ⑦キャリア教育の推進 ⑧奨学金貸付による経済的な支援 ⑨学び直しの機会の提供
	イ. 確かな学力の向上
	①幼児教育と小学校教育の滑らかな接続（保幼小の連携） ②学力の実態把握（教育データの活用） ③わかる授業の推進 ④「学びのサイクル」の具体化・見える化 ⑤読解力の向上 ⑥英語力の向上 ⑦若手教員の育成 ⑧教職員の指導力向上
	ウ. 健やかな心と体の育成
	①子育て支援の充実 ②リズムジャンプ等を取り入れた体力の向上 ③発達段階に応じた生活習慣の定着 ④教育活動を通じた食育の推進と「食べる力」の育成 ⑤地域の食文化の継承と魅力ある献立づくり ⑥教育活動を通じた健康管理の推進 ⑦特別な配慮を必要とする幼児への支援 ⑧特別支援教育の推進 ⑨長期欠席・不登校への対策 ⑩子ども・若者の社会参加、自立支援 ⑪児童生徒の相談・支援体制の充実 ⑫青少年育成センターの機能の充実（専門的知見の活用） ⑬青少年の体験活動の推進

津山市教育振興基本計画に基づく方向性と施策（一覧）



津山市教育振興基本計画に基づく方向性と施策（一覧）

基本的方向性Ⅱ

教育環境の改善・充実

教育活動を支える環境づくり

～自立し 心豊かにたくましく
将来へ「つなぐ力」を育むための基盤整備～

ア. 安全・安心な学校づくり

- ①幼稚園・小中学校施設整備
- ②安全安心対策
- ③新型コロナウイルス感染症対策や各種環境衛生対策
- ④安全安心に配慮した給食提供と食育センター施設・設備の整備

イ. 良好な教育環境の維持・向上

- ①幼稚園ICT環境整備
- ②学校ICT環境整備
- ③小中学校の適正規模・適正配置
- ④教職員の働き方改革
- ⑤学校給食費の公会計化及び学校事務の効率化
- ⑥児童生徒の相談・支援体制の充実 【再掲】
（（１）自立 ウ. 健やかな心と体の育成 に記載）
- ⑦青少年育成センター機能の充実（専門的知見の活用） 【再掲】
（（１）自立 ウ. 健やかな心と体の育成 に記載）

ウ. 総合的な連携体制の構築

- ①教育委員会活動の活性化
- ②コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の推進 【再掲】
（（２）つながり イ. 人や地域との豊かな人間関係の構築 に記載）
- ③親（保護者）学講座の推進

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実									
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～									
ア. 主体的に学ぶ意欲の育成											
取 組		①質の高い幼児教育の提供	担当課 こども保育課								
具体 施策と 実施 状況	○岡山県学校保健研究大会幼稚園部会において、つやま東幼稚園がテーマを「主体的に心と体を動かして楽しんで遊ぶ幼児を目指して」として研究発表を行った。幼児期に体を動かす楽しさを味わい、自ら体を動かそうとする意欲を育てることの大切さを共有した。										
	○教育目標の達成に向けて重点目標を掲げ指導計画を見直す等、全職員で協働してカリキュラムマネジメントを実施していくことに努め、保護者や学校関係者評価委員からの高評価も得た。										
	○保育現場が日々の実践に活用できるような講師を招聘し、特別支援教育をはじめ資質向上のための研修会を6回実施した。										
	○英語に親しむ活動としてALTを招いた活動を3回実施し、幼児が楽しみながら英語に触れる機会となった。										
目標 達成 度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>園内研修の実施回数 (回/園)</td><td>12回</td><td>13回</td><td>15回</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	園内研修の実施回数 (回/園)	12回	13回	15回
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値								
園内研修の実施回数 (回/園)	12回	13回	15回								
課題	◆若手職員の急激な増加のため、OJTを実施しながら、園全体で日常のサポートや協力を行う必要がある。										
今後の 方向性	◇令和6年度以降にも研究の成果を生かした保育実践を進めていく。 ◇若手職員を園全体でサポートしたり、中堅職員が園運営へ参画し中核的な役割を果たす力を向上をさせたりするなど、園全体で協働して資質向上を図っていく。 ◇保育現場の課題や必要とするテーマを探り、学級経営や保育実践に活かせる研修会の実施を継続する。 ◇教育委員会と連携しALTを活用していく。音楽や簡単な単語などを取り入れ遊びの中で楽しみながら英語に親しむ機会とする。										

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実									
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～									
ア. 主体的に学ぶ意欲の育成											
取 組		②個別最適な学びと協働的な学びのためのICT教育の推進	担当課 学校教育課								
具体 施策と 実施状 況	○「教職員資質向上事業」により、ICT活用で先進的に実践する教員を推進員として委嘱し、県内外の視察を行い、好事例収集や市内への情報発信を行った。 ○学校において、児童生徒が日常的に端末を活用する授業改善に取り組んだ。 ○学校教育研究センターにおいて、個別最適な学びと協働的な学びを進めるための学習方法等、児童生徒用端末を活用した先導的な取組の実践を行うとともに、教科ごとの実践報告会を行った。										
目標 達成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>教員が「授業でほぼ毎日コンピュータなどのICT機器を使用する」と回答する割合(市独自調査)</td><td>【小】30% 【中】38%</td><td>【小】80% 【中】80%</td><td>【小】88.9% 【中】62.5%</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	教員が「授業でほぼ毎日コンピュータなどのICT機器を使用する」と回答する割合(市独自調査)	【小】30% 【中】38%	【小】80% 【中】80%	【小】88.9% 【中】62.5%
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値								
教員が「授業でほぼ毎日コンピュータなどのICT機器を使用する」と回答する割合(市独自調査)	【小】30% 【中】38%	【小】80% 【中】80%	【小】88.9% 【中】62.5%								
課題	◆教員間・児童間でICTの活用スキルの差があることから、目標値に対して、小学校は昨年度より上昇したが、中学校については目標値に達していない。										
今後の 方向性	◇年度当初より各学校において、操作スキルを高めることや、授業などでの活用方法を探るため、校内の推進体制と研修を強化させる。 ◇学校情報化認定を使って市内各校のICT活用の底上げを図る。 ◇ICT活用推進員が作成した津山市ICTリテラシー学年別表を活用し、児童生徒が身に付けるべきスキルを共有し、取組を進める。また、今年度は活用推進員を拡充し、先進事例の収集と横展開に努める。										

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実								
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～								
ア. 主体的に学ぶ意欲の育成										
取 組		③ICTを活用した先進的な授業展開の あり方の調査・研究	担当課 学校教育課 教育総務課							
具 体 施 策 と 実 施 状 況	(学校教育課) ○ICT活用推進員による端末を活用したSTAGE3の授業実践を市内全体に公開した。 ※STAGE3とは岡山県版ICT機器授業活用1・2・3」で示された「探究的な学習×主体的なICT活用」 (教育総務課) ○東京学芸大学、NTT西日本、双方の連携事業により、VRを活用した「狂言体験」や「交通安全学習」を実施。また令和5年度は、教科教育での活用を目的に、勝北中学校の体育で実践。親和性の高い教科での活用可能性を実証から確認した。 ○東京学芸大学との連携により、生成AIを活用した授業の振り返りを中学校で実証。現場からも高評価あり、今後の活用を検討する。									
	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>調査・研究成果の市内小中学校での実践（累計）</td><td>2校 (実証研究)</td><td>14校 (実証研究)</td><td>14校 (実証研究)</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	調査・研究成果の市内小中学校での実践（累計）	2校 (実証研究)	14校 (実証研究)
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値							
調査・研究成果の市内小中学校での実践（累計）	2校 (実証研究)	14校 (実証研究)	14校 (実証研究)							
目 標 達 成 度										
課 題	(学校教育課) ◆まだ市内全体にはSTAGE3の授業が広がっていない。 (教育総務課) ◆VRの活用においては、教科での実証も行い、今後は他校への展開が求められるが、準備や回線など、簡単に活用できる方法の確立が必要。 ◆ICTを活用した教育に対しては、特定の学校のみが関心を示す傾向があり、市内全校への広がりには欠けている。(親和性の高い教科や単元を見定め、教員に体験や説明するなど関心を高める施策が必要) ◆生成AIについては、複数教科での実証や導入費用のハードルがある。									
今 後 の 方 向 性	(学校教育課) ◇ICT活用推進員の授業公開だけでなく、授業改革推進員や学校教育研究センター各部会と連携し、授業観の転換を図るため、先導的取組の研究・実践を年度内に行う。 (教育総務課) ◇VRについては、簡易に利用できる機器・コンテンツのパッケージを考案し、モデル校を中心に提案・実証を行う。 ◇生成AIについては、実証校からも教科を広げて活用したい要望があり、他教科での実証を検討する。									

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実									
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～									
ア. 主体的に学ぶ意欲の育成											
取 組		④主体的・対話的で深い学びを実現する 学力向上対策の推進	担当課 学校教育課								
具体施策と実施状況	○小中学校に配置している授業改革推進チームを柱として、岡山型学習スタンダード増補版や生徒指導の4つの視点を意識した授業改善等を進めるとともに、授業改善に関わる定期的な情報配信を行った。										
目標達成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>全国調査「授業で課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだ」の項目で肯定的な回答をした児童生徒の割合</td><td>【小6】72.5% 【中3】78.8%</td><td>【小6】76% 【中3】80%</td><td>【小6】79.2% 【中3】78.7%</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	全国調査「授業で課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだ」の項目で肯定的な回答をした児童生徒の割合	【小6】72.5% 【中3】78.8%	【小6】76% 【中3】80%	【小6】79.2% 【中3】78.7%
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値								
全国調査「授業で課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだ」の項目で肯定的な回答をした児童生徒の割合	【小6】72.5% 【中3】78.8%	【小6】76% 【中3】80%	【小6】79.2% 【中3】78.7%								
課題	◆小学校においては目標値を達成したが、中学校においては目標値を達成できていない。理由としては、授業において、教師が説明する場面が多く、児童生徒自身が、思考力・判断力を働かせる授業となっていない場合が多いことが考えられる。 ◆小学校では、授業改革推進員を配置している学校や兼務校では、日々の授業を軸に授業改善を進めることができているが、配置校ではない学校の改善が進みにくい。通信等を使って情報発信を行っているが、その視点をどこまで活用したり、校内で取り扱ったりするかを共通理解しにくい。 ※未配置校12校										
今後の方向性	◇令和6年度は、授業改革推進チームにも校内研修への参画を積極的をお願いしている。また、配置校以外の学校へも要望に合わせて授業改善に繋がる参画をしていく予定である。 ◇学校訪問を通して、各校の実践の紹介を行ったり、具体的な取組に繋がるように、研究主任会年間2回、学力向上担当者会年間3回計画し、運営を行う。										

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実									
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～									
ア. 主体的に学ぶ意欲の育成											
取 組		⑤小学校第Ⅰ学年の落ち着いた学習環境 の整備	担当課 学校教育課								
具体 施策と 実施状 況	○小Ⅰグッドスタートの加配が市内2校3学級に年間配置され、就学前からの継続した個別支 援ときめ細やかな生活・学習規律の定着を図ることができた。										
目 標 達 成 度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>小学校Ⅰ年生のすべての学級に おける授業不成立の学級 ※加配配置校のみ</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	小学校Ⅰ年生のすべての学級に おける授業不成立の学級 ※加配配置校のみ	0	0	0
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値								
小学校Ⅰ年生のすべての学級に おける授業不成立の学級 ※加配配置校のみ	0	0	0								
課 題	◆加配の要件を満たしていない学校においては、教育支援員が配置できず、学級が落ち着か なくなる場合が見られる。										
今 後 の 方 向 性	◇加配の要件を満たしている学級に、年間を通じて教育支援員を配置し、個別支援や生活・学 習規律の定着、基礎学力の習得等、一人一人へのきめ細やかな指導を実施する。 ◇児童一人一人の寄り添った指導が行われるよう、担任と教育支援員が日頃の情報共有を行 うなど、連絡を密に行う。 ◇教育支援員未配置校においても学級が不安定化しないように、保幼小の連携も活用して いく。										

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実												
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～												
ア. 主体的に学ぶ意欲の育成														
取 組		⑥少人数指導の充実	担当課 学校教育課											
具体施策と実施状況	○学級編成弾力化事業により、市費非常勤講師を配置し、市内6小学校7学級において教科単位での少人数指導や習熟度別などのチーム・ティーチング指導を実施し、きめ細やかな指導を行い、落ち着いた学習環境の充実を図った。													
目標達成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td rowspan="2">各教科で全国平均を上回る(全国の標準スコアを50と見る(全国・県調査))</td><td>【小5】 国語50.6 算数49.5</td><td>【小5】 国語51 算数51</td><td>【小5】 国語49.3 算数48.2</td></tr><tr><td>【小6】 国語49.7 算数48.9</td><td>【小6】 国語51 算数51</td><td>【小6】 国語50.7 算数49.7</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	各教科で全国平均を上回る(全国の標準スコアを50と見る(全国・県調査))	【小5】 国語50.6 算数49.5	【小5】 国語51 算数51	【小5】 国語49.3 算数48.2	【小6】 国語49.7 算数48.9	【小6】 国語51 算数51	【小6】 国語50.7 算数49.7
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値											
各教科で全国平均を上回る(全国の標準スコアを50と見る(全国・県調査))	【小5】 国語50.6 算数49.5	【小5】 国語51 算数51	【小5】 国語49.3 算数48.2											
	【小6】 国語49.7 算数48.9	【小6】 国語51 算数51	【小6】 国語50.7 算数49.7											
課題	◆令和7年度で、小学校の35人学級が全学年で実施されるようになるが、35人以下でも人数が多い学級へのきめ細やかな落ち着いた学習環境づくりの充実が必要になってくる。													
今後の方向性	◇令和6年度は35人学級の基準外は1校1学級(佐良山小6年)のため、市費非常勤講師を配置し、少人数指導によるきめ細やかな落ち着いた学習環境の充実を図っていく。													

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実			
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～			
ア. 主体的に学ぶ意欲の育成					
取 組		⑦キャリア教育の推進	担当課 学校教育課		
具体 施策と 実施 状況	○「岡山チャレンジ・ワーク14事業」を活用して市内全中学校において、3日間程度の職場体験活動を実施した。 ○各中学校ブロックでのキャリア教育推進事例の紹介とキャリアパスポートの活用が進んだ。 ○学校教育活動全体を通じてキャリア教育の充実を図るために、キャリアパスポートの効果的な活用などの実践を積み、市内で共有を行った。				
目標 達成 度	計画中の指標		計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値
	全国調査「自分にはよいところがある」の項目で肯定的な回答をした児童生徒の割合		【小6】78.8% 【中3】79.0%	【小6】86% 【中3】83%	【小6】83.2% 【中3】76.9%
	全国調査「将来の夢や目標を持っている」の項目で肯定的な回答をした児童生徒の割合		【小6】81.2% 【中3】74.4%	【小6】87% 【中3】78%	【小6】82.0% 【中3】78.3%
課題	◆「自分にはよいところがある」の現況値が小中学校ともに目標値に届かなかった。また、小学校は「将来の夢や目標を持っている」の現況値が目標値をやや下回っている。コロナ禍の影響で、地域行事等への参加が減少していることが原因の一つとして考えられる。 ◆児童生徒自身が自分の成長を自覚しながら、自らの学びをより効果的に振り返りできるよう、学びの見える化を図ること。 ◆各学校の特色に応じた取組に基づき、キャリアパスポートの効果的な活用の実践蓄積が必要である。				
今後の方向性	◇3年間の取組を活かし、各学校の特色を活かした教育活動を推進し、それぞれの取組を児童生徒がキャリアパスポートを効果的に活用することで、自分自身の学びを自覚する取組を各校において推進する。 ◇また、年度当初より、チャレンジ・ワーク14事業の内容の見直しを図る。				

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実									
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～									
ア. 主体的に学ぶ意欲の育成											
取 組		⑧奨学金貸付による経済的な支援	担当課 次世代育成課								
具体施策と実施状況	○令和5年度における奨学金の新規貸与は9人であった。 ○実施にあたっては、中学や高校などの関係機関や市のホームページ、情報誌等を通じて情報提供や制度の周知に努めた。										
目標達成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>奨学金募集定員に対する応募率</td><td>90% (R2)</td><td>100%</td><td>100%</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	奨学金募集定員に対する応募率	90% (R2)	100%	100%
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値								
奨学金募集定員に対する応募率	90% (R2)	100%	100%								
課題	◆津山市奨学金について、令和5年度の募集については定員を上回る応募があったが、令和6年度の募集については定員を下回ることとなった。 今後は、奨学金の魅力を増すための貸与額の増額も検討課題となるが、増額により返還困難を引き起こす可能性があること、定住促進の観点から、減免措置により基金を取り崩しているため、財源確保の問題等を考慮した上で慎重に検討する必要がある。										
今後の方向性	◇引き続き情報提供や制度の周知に努め、学業が優秀で学ぶ意欲があるにもかかわらず、経済的理由により学ぶことが困難な生徒、学生に対して奨学金貸与による経済的な支援を継続していく。										

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実									
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～									
ア. 主体的に学ぶ意欲の育成											
取 組		⑨学び直しの機会の提供	担当課 次世代育成課								
具体施策と実施状況	○学び直しの機会の提供として、まなびカフェを相談員2名と職員1名の体制で相談及び学習支援を実施した。 令和6年3月時点においては、支援対象者は3名であった。										
目標達成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>義務教育内容の学び直し事業 「まなびカフェ」参加者数</td><td>6名 (R2)</td><td>10名</td><td>3名</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	義務教育内容の学び直し事業 「まなびカフェ」参加者数	6名 (R2)	10名	3名
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値								
義務教育内容の学び直し事業 「まなびカフェ」参加者数	6名 (R2)	10名	3名								
課題	◆中学卒業後に所属のない人に対する新規の相談や支援を行っており、これらの人を、支援につなげていくことが必要である。										
今後の方向性	◇ニートやひきこもり状態にある方への支援の一環として、学び直しの機会を提供し、引き続き対象者のニーズを拾い上げるよう努めていく。また、参加しやすい場所として、学習希望者の自宅付近の公民館や市役所内の会議室などを利用し、保護者らの送迎が難しい人や、平日の昼間に同年代に会いたくない人への対応も行う。										

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実									
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～									
イ. 確かな学力の向上											
取 組		①幼児教育と小学校教育の滑らかな接続 (保幼小の連携)	担当課 こども保育課 学校教育課								
具体 施策 と 実 施 状 況	(こども保育課・学校教育課) ○「津山市共通支援シート」を全園実施した。年度末の引き継ぎの徹底と小学校での確実な活用へ向けて周知を行った。幼児教育職員対象に詳しい記載内容等についての研修会を実施。 ○連携に対する職員一人一人の理解を得るために講師による研修会と幼稚園等の公開保育を2回・小学校の公開授業を1回実施し、学校種を超えて相互理解を深める協議を中心とした研修を実施した。 ○年2回実施している管理職会は定例化し、接続の意識をもちながら交流活動が実施できた。										
目標 達成 度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>「アプローチカリキュラム」・「スタートカリキュラム」について、職員の合同研修や協議の回数【2園合計】</td><td>8回 (分散研修会のため)</td><td>8回</td><td>8回</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	「アプローチカリキュラム」・「スタートカリキュラム」について、職員の合同研修や協議の回数【2園合計】	8回 (分散研修会のため)	8回	8回
	計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値							
「アプローチカリキュラム」・「スタートカリキュラム」について、職員の合同研修や協議の回数【2園合計】	8回 (分散研修会のため)	8回	8回								
課題	(こども保育課・学校教育課) ◆連携に対する職員一人一人の理解には差があるため、広く周知するには研修会等を継続することが必要である。 ◆市内全園で「共通支援シート」を活用するが、各園の取組差が生じるため、幼児教育職員対象に研修会を実施する必要がある。 ◆管理職会は定例化してきているが、交流活動だけではなく、カリキュラムをつなぐ接続の意識を高めていく必要がある。										
今後 の 方 向 性	(こども保育課・学校教育課) ◇「津山市共通支援シート」の活用が全園実施2年目となるため、記載内容がより充実し必要な場面で効果的な活用ができるように、小学校と幼児教育職員合同の研修会を実施する。 ◇架け橋プログラムの推進をしていくために、研修会等の継続と推進体制の構築をしていく。 ◇管理職会が主体的に行えるようにサポートしながら、子どもの姿を起点とした取組を推進し、カリキュラムをつなぐという接続の意識を高め、架け橋期のカリキュラムの作成につなげる。										

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実									
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～									
イ. 確かな学力の向上											
取 組		②学力の実態把握（教育データの活用）	担当課 教育総務課								
具体 施策と 実施状 況	(教育総務課) ○令和4年度からデータ蓄積期として、特にAIドリルnavimaの学習データ活用を目指し、ドリル実践によるデータを蓄積してきた。 ○NTT西日本等との連携により、蓄積されたnavimaの学習データを別ツールに投入し、そのツールによりデータ可視化ができるよう、必要なデータ種別の選定やその活用を学校と協議した。										
目標 達成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>教育データ可視化システム導入 学校数（累計）</td><td>2校 （実証）</td><td>2校 （実証）</td><td>2校 （実証）</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	教育データ可視化システム導入 学校数（累計）	2校 （実証）	2校 （実証）	2校 （実証）
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値								
教育データ可視化システム導入 学校数（累計）	2校 （実証）	2校 （実証）	2校 （実証）								
課題	(教育総務課) ◆まなびポケットにデータ可視化機能がまだ実装されておらず、別ツールでのデータ閲覧を目指しているが、データ投入の労力と閲覧できる端末が限られる。 ◆投入すべきデータは多岐に渡るが、データ形式による制限等、投入可能なデータが限られる。										
今後 の方向 性	(教育総務課) ◇navimaの機能アップデートにより、navima内で必要データの多くが教職員全員で可能となったため、まずは教員が別ツールではなくnavimaのデータを閲覧し、活用することをモデル校を中心に行っていく。 ◇まなびポケットでのデータ可視化が実装されることを見越し、NTTと連携し、中長期的なデータ活用モデルの構築を検討する。										

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実												
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～												
イ. 確かな学力の向上														
取 組		③わかる授業の推進	担当課 学校教育課											
具体 施策と 実施状 況	○基礎的な学力の定着と活用の力の育成を図るため、「わかる授業推進事業」による、AIドリル「navima」の活用を積極的に進めた。 ○授業力の向上や多面的な児童理解、学習意欲の向上、若手教員の増加等の新たな手立てとして、学年担任制も見据えながら、高学年の教科担任制を全学校で実施した。													
目標 達成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td rowspan="2">全国調査「国語・算数(数学)の授業の内容がよくわかる」の項目で肯定的な回答の割合</td><td>【小6】 国語85.2% 算数84.4%</td><td>【小6】 国語87% 算数86%</td><td>【小6】 国語89.9% 算数85.9%</td></tr><tr><td>【中3】 国語77.5% 数学74.9%</td><td>【中3】 国語79% 数学77%</td><td>【中3】 国語78.5% 数学79.4%</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	全国調査「国語・算数(数学)の授業の内容がよくわかる」の項目で肯定的な回答の割合	【小6】 国語85.2% 算数84.4%	【小6】 国語87% 算数86%	【小6】 国語89.9% 算数85.9%	【中3】 国語77.5% 数学74.9%	【中3】 国語79% 数学77%	【中3】 国語78.5% 数学79.4%
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値											
全国調査「国語・算数(数学)の授業の内容がよくわかる」の項目で肯定的な回答の割合	【小6】 国語85.2% 算数84.4%	【小6】 国語87% 算数86%	【小6】 国語89.9% 算数85.9%											
	【中3】 国語77.5% 数学74.9%	【中3】 国語79% 数学77%	【中3】 国語78.5% 数学79.4%											
課題	◆目標値を概ね達成しているが、AIドリル「navima」の活用は、学びのサイクルに位置づけている学校とそうでない学校で、学校間での使用率の格差がある。													
今後の 方向性	◆年度当初よりAIドリル「navima」を授業や家庭学習等の教育活動の中に位置づけ、個別最適化された学びのサイクルを構築し、基礎基本の徹底や活用力の定着を図る。 ◆授業改革推進チームと連携し、授業改善の視点を示したチェックシート等を活用し、授業改善についての指導助言を行うとともに、県内外の授業改善やその取組の好事例の収集を行い、最新の情報を発信する。 ◆年度当初より小学校において、児童の学習意欲の向上、若手教員の増加等の新たな対策として、学年担任制を全校に導入する。													

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実													
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～													
イ. 確かな学力の向上															
取 組		④「学びのサイクル」の具体化・見える化	担当課 学校教育課												
具体 施策と 実施状 況	○津山市の重点取組として「学びのサイクルの確立」を位置付けており、学校訪問や管理職面談と連動した具体的な項目(目標)設定と定期的な検証の実施を行った。 ○中学校では教科会の協議が進み、学びのサイクルを意識した授業改善や家庭学習への意識の醸成が高まっている。														
目標 達成 成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>「学びのサイクル」において、事後的検証のための具体的かつ客観的な取組指標を設定している学校数</td><td>【小】12 【中】 4</td><td>【小】27 【中】 8</td><td>【小】27 【中】 8</td></tr><tr><td>県調査「学校で行われる補充学習(授業以外の学習)に参加している」児童生徒の割合</td><td>【小5】55.9% 【中2】52.1%</td><td>【小5】62% 【中2】58%</td><td>【小5】52.0% 【中2】50.0%</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	「学びのサイクル」において、事後的検証のための具体的かつ客観的な取組指標を設定している学校数	【小】12 【中】 4	【小】27 【中】 8	【小】27 【中】 8	県調査「学校で行われる補充学習(授業以外の学習)に参加している」児童生徒の割合	【小5】55.9% 【中2】52.1%	【小5】62% 【中2】58%	【小5】52.0% 【中2】50.0%
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値												
「学びのサイクル」において、事後的検証のための具体的かつ客観的な取組指標を設定している学校数	【小】12 【中】 4	【小】27 【中】 8	【小】27 【中】 8												
県調査「学校で行われる補充学習(授業以外の学習)に参加している」児童生徒の割合	【小5】55.9% 【中2】52.1%	【小5】62% 【中2】58%	【小5】52.0% 【中2】50.0%												
課題	◆「学びのサイクル」については、各学校で具体的かつ客観的な取組指標を設定している学校数が増えているが、補充学習に参加している児童生徒の割合は減っている。 ◆「学びのサイクル」については、学年や学級間、教科間で取組状況に差が見られる。 ◆取組の検証方法が抽象的で、学校や教員の感覚的検証になりやすい。														
今後 の方向 性	◇確かな学力の定着を図るため、「学びのサイクル」において、各校で取り組む内容や検証方法が具体的な数値になるよう、校長面談・学校訪問や校園長会議で確認を行い、取組の確認と徹底を継続していく。 ◇補充学習において、授業や家庭学習との連動を図るなど、全ての児童生徒が参加できるように、校長面談・学校訪問や校園長会議などで働きかけていく。														

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実													
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～													
イ. 確かな学力の向上															
取 組		⑤読解力の向上	担当課 学校教育課												
具体 施策と 実施状 況	○読解力向上事業による「よむYOMUワークシート」を全校で実施したことにより、新聞記事を目にするなど、質の高い文章を読む機会が増え、情報を取り出すスキルが向上している。 ○各学校の「学びのサイクル」に新聞教材やワークシート、読書活動等読解力向上の手立てを位置づけ、各学校の児童生徒の実態を踏まえた取組を進めた。 ○AIドリル「navima」による読解力育成問題の活用を学校に促した。 ○司書教諭を中心に学校司書、図書整理員と連携し校内読書週間や委員会活動を通して学校図書館を利用した授業や調べ学習等の充実に取り組んだ。														
目標 達成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>全国調査国語科「読むこと」の正答率における全国平均値との差</td><td>【小6】-3.7 【中3】-4.4</td><td>【小6】-1 【中3】-2</td><td>【小6】+1.1 【中3】-5.5</td></tr><tr><td>全国調査「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、どれくらいの時間、読書をしますか」の項目において、読書を全くしない割合</td><td>【小6】30.1% 【中3】41.6%</td><td>【小6】20% 【中3】30%</td><td>【小6】25.6% 【中3】35.0%</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	全国調査国語科「読むこと」の正答率における全国平均値との差	【小6】-3.7 【中3】-4.4	【小6】-1 【中3】-2	【小6】+1.1 【中3】-5.5	全国調査「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、どれくらいの時間、読書をしますか」の項目において、読書を全くしない割合	【小6】30.1% 【中3】41.6%	【小6】20% 【中3】30%	【小6】25.6% 【中3】35.0%
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値												
全国調査国語科「読むこと」の正答率における全国平均値との差	【小6】-3.7 【中3】-4.4	【小6】-1 【中3】-2	【小6】+1.1 【中3】-5.5												
全国調査「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、どれくらいの時間、読書をしますか」の項目において、読書を全くしない割合	【小6】30.1% 【中3】41.6%	【小6】20% 【中3】30%	【小6】25.6% 【中3】35.0%												
課題	◆「読むこと」の正答率について小学校では上回ったが、中学校としては依然として全国値を下回っている。国語科だけの課題ではなく、教科を横断して読解力を育成する必要がある。 ◆読書を全くしない割合が依然として高い。社会全体の読書離れが本市も同様に影響していると推察される。 ◆「よむYOMUワークシート」については、導入1年目であったため、活用計画や効果的な活用方法が確立していなかったため、各校の取組方法や意識に差があった。														
今後の 方向性	◇「よむYOMUワークシート」について、児童生徒の論理的試行及び構造を読み解く力等の課題を克服するため、校内で共通理解をし、計画表に基づいて活用し、読解力の育成を図る。 ◇家庭学習時間の確保を促すとともに、読書活動の推進に継続的に取り組む。 ◇津山市立図書館や学校司書と連携した読書活動への参加や本に親しみ意欲の高まる図書室の環境づくり等をすすめる。														

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実									
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～									
イ. 確かな学力の向上											
取 組		⑥英語力の向上	担当課 学校教育課								
具体 施策と 実施状 況	○確かな学力向上対策事業（英語力向上事業）により、外国語授業力向上研修会を年2回開催し、津山市英語指導スーパーバイザー（大学講師）からの指導・助言を通じて、小中連携についての理解を深め、具体的な取組につなげた。 ○中学校2校合同の中学校ブロックで、各校の課題に応じた研修を企画・実施し、小中で連携した取組の実施・検証や今後の授業実践についての理解を深めた。 ○小学校3年生以上の英語授業には、英語専科教員や英語支援員を配置し、英語に慣れ親しんだり、コミュニケーションの基礎を身につけたりするなど、小学校英語の充実を図った。										
目標 達成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>全国調査「英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていた」の項目で肯定的な回答する割合</td><td>【小6】74.7% 【中3】70.9%</td><td>【小6】77% 【中3】73%</td><td>未測定 (全国調査に 質問項目無し)</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	全国調査「英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていた」の項目で肯定的な回答する割合	【小6】74.7% 【中3】70.9%	【小6】77% 【中3】73%	未測定 (全国調査に 質問項目無し)
	計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値							
全国調査「英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていた」の項目で肯定的な回答する割合	【小6】74.7% 【中3】70.9%	【小6】77% 【中3】73%	未測定 (全国調査に 質問項目無し)								
課題	◆児童生徒が言語活動を通して学び、英語を通じて、思考力・判断力・表現力（コミュニケーション）の育成を図ることが必要である。 ◆全国学力調査において、英語の実施が3年に1回のため、全国調査が毎年行われない。 新たな目標設定を考える必要がある。										
今後 の方向性	◇英語教育専門機関による研修を年3回実施し、英語科が必要としている「言語活動を中心とした」資質・能力の育成を目指した中学校教員の授業力向上に係る研修の充実を図る。 ◇外国人講師（ALT）の活用等、児童生徒が積極的にコミュニケーションを図る言語活動の充実を継続的に実施する。 ◇小中連携の取組を学校教育研究センター外国語部会と連携して推進することで、児童生徒が系統的に学ぶことができる英語力の育成を図る。										

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実								
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～								
イ. 確かな学力の向上										
取 組		⑦若手教員の育成	担当課 学校教育課							
具体 施策と 実施状 況	○市独自の「津山市若手教員育成チェックシート」の5つの視点（資質能力）について4段階の指標に基づく評価を行い、学校と学校経営アドバイザー、教育委員会とが連携し若手教員の育成を図った。 ○初任者の実態を踏まえ、若手教員教科充実事業により、市独自で初任者研修を年2回開催した。また、学校のニーズに応じて、指導主事による直接訪問指導及び各校において校内OJT体制を構築し、若手教員の授業実践力向上や先輩教員の指導助言力向上のための研修会等を行い、継続的な人材育成を進めた。									
	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>「津山市若手教員育成チェックシート」5つの視点の評価点（各4点満点）の平均</td><td>【小】2.3 【中】2.4</td><td>【小】2.7 【中】2.8</td><td>【小】2.8 【中】3.0</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	「津山市若手教員育成チェックシート」5つの視点の評価点（各4点満点）の平均	【小】2.3 【中】2.4	【小】2.7 【中】2.8
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値							
「津山市若手教員育成チェックシート」5つの視点の評価点（各4点満点）の平均	【小】2.3 【中】2.4	【小】2.7 【中】2.8	【小】2.8 【中】3.0							
課題	◆目標値を達成しているが、若手教員の授業実践力向上や学級経営、生徒指導力等、キャリアステージに応じた人材育成を組織的かつ継続的に進めることが必要である。									
今後の方向性	◇年度当初より、校内で、「津山市若手教員養成チェックシート」を活用し、学級経営や授業実践に指導力を発揮できる人材育成を行う。 ◇学校経営アドバイザーと学校長、指導主事が情報交換を行いながら、組織的かつ継続的な人材育成に繋がるようにする。									

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実								
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～								
イ. 確かな学力の向上										
取 組		⑧教職員の指導力向上	担当課 学校教育課							
具体 施策と 実施状 況	○授業改革推進チームと連携し、本市の課題に応じた研修（学力向上担当者会等）を実施するとともに、課題解決に向けた情報提供や指導助言を行った。 ○学校教育研究センターにおいて、個別最適な学びと協働的な学びを進めるための学習方法等、児童生徒用端末を活用した先導的な取組の実践を行うとともに、教科ごとの実践報告会を行った。									
	目標 達成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>全国調査「教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に反映している」の項目で肯定的な回答をした学校数</td><td>【小】17校 【中】5校</td><td>【小】21校 【中】7校</td><td>未測定 (全国調査に 質問項目無し)</td></tr></table>		計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	全国調査「教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に反映している」の項目で肯定的な回答をした学校数	【小】17校 【中】5校	【小】21校 【中】7校
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値							
全国調査「教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に反映している」の項目で肯定的な回答をした学校数	【小】17校 【中】5校	【小】21校 【中】7校	未測定 (全国調査に 質問項目無し)							
課題	◆教育課題に応じた研修会を開催し、担当者による他校との協議や実践交流を推進する。 ◆全国学習状況調査は、年度により調査項目がない場合がある。市独自で調査を行うなど、新たな目標設定を考える必要がある。									
今後 の方向 性	◇授業改革推進チームと連携して、日々の個別指導、組織的な改革、年3回行っている学力向上担当者会や地区別協議会を実施し、本市の課題解決に向けた取組を行う。									

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実									
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～									
ウ. 健やかな心と体の育成											
取 組		①子育て支援の充実	担当課 こども保育課								
具体 施策と 実施状 況	○保育開始前、保育終了後の一時預かり利用者が増加し保護者のニーズに合った支援となった。 ○地域子育て支援センター事業として、出前保育を27回、子育て講座を48回、ICTを活用したオンラインイベントを30回（合同イベントを3回）実施した。取組が定着し、利用者の満足度も高い。										
目標 達成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>利用者の満足度 (幼稚園2センター分の平均)</td><td>90% 【R2】</td><td>92%</td><td>97%</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	利用者の満足度 (幼稚園2センター分の平均)	90% 【R2】	92%	97%
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値								
利用者の満足度 (幼稚園2センター分の平均)	90% 【R2】	92%	97%								
課題	◆保護者が安心して子育てができるよう、保護者のニーズを探る必要がある。 ◆地域子育て支援センターの相談業務において、現状ではICT利用者はいないが、今後必要となる可能性がある。										
今後の 方向性	◇保護者同士のおしゃべりタイムが情報交換の場、ほっとする場となっており、ニーズも高い。 引き続き時間を確保し、充実したものとなるようにする。 ◇1歳までの“はッピー子育てひろば”を地域子育て支援センターで行うことで、より気軽に利用しやすいものとする。 ◇ICTを活用した育児相談やオンラインイベントを継続し家庭に居ても、誰かとつながれる体制にしておく。										

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実													
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～													
ウ. 健やかな心と体の育成															
取 組		②リズムジャンプ等を取り入れた体力の 向上	担当課 こども保育課 学校教育課												
具体 施策と 実施状 況	(こども保育課) ○指導者を招聘した職員対象研修会を実施し、幼児教育職員がリズムジャンプへの理解や スキルを高め、日々の保育や運動会等の行事に取り入れ、幼児が進んで体を動かそうとする 意欲につながれるようにした。 (学校教育課) ○岡山県が実施する「みんなでチャレンジランキング」への参加や「いきいき岡山っ子運動習 慣カード」の活用を進め、運動に親しむ環境づくりに努めた。 ○リズムジャンプの取組拡大により、スポーツに関する意欲や運動能力の向上を進めた。														
目標 達成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>リズムジャンプ実施回数 【幼稚園】(回／園)</td><td>13回 (R2)</td><td>15回</td><td>15回</td></tr><tr><td>全国体力調査「体育の授業は楽し い」の項目で肯定的な回答をした 児童の割合【小学校(5年生)】</td><td>男子71.1% 女子55.5% (R3)</td><td>男子74% 女子60%</td><td>男子74.8% 女子59.8%</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	リズムジャンプ実施回数 【幼稚園】(回／園)	13回 (R2)	15回	15回	全国体力調査「体育の授業は楽し い」の項目で肯定的な回答をした 児童の割合【小学校(5年生)】	男子71.1% 女子55.5% (R3)	男子74% 女子60%	男子74.8% 女子59.8%
	計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値											
リズムジャンプ実施回数 【幼稚園】(回／園)	13回 (R2)	15回	15回												
全国体力調査「体育の授業は楽し い」の項目で肯定的な回答をした 児童の割合【小学校(5年生)】	男子71.1% 女子55.5% (R3)	男子74% 女子60%	男子74.8% 女子59.8%												
課題	(こども保育課) ◆リズムジャンプに幼児自身が楽しんで繰り返し取り組むことで、リズム感やジャンプ力が身に 付き、縄跳びや走るなど、様々な運動遊びに活かされているが、体を動かす遊びに対して 苦手意識をもっている幼児に対しては、個人差に応じた対応をする必要がある。 (学校教育課) ◆全小学校においてリズムジャンプを取り入れた体育授業を推進し、目標値は達成できている ものの、各校の取組方法や意識に差があった。														
今後 の方向 性	(こども保育課) ◇研修会に参加しリズムジャンプの理解やスキルを高めた幼児教育職員が中心となり、日常の 保育にリズムジャンプを取り入れ、進んで体を動かそうとする意欲を育み、体力の向上へつな げていく。 (学校教育課) ◇8月の市主催の初任者研修においてリズムジャンプ研修会を実施し、指導者を増やして、市 内での取組を広げていく。 ◇友だちと協力する場や運動習慣の定着を目指し、「みんなでチャレンジランキング」や「いき いき岡山っ子運動習慣カード」の積極的な参加や活用を呼びかけ、体力の向上を図る。														

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実																	
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～																	
ウ. 健やかな心と体の育成																			
取 組		③発達段階に応じた生活習慣の定着	担当課 こども保育課 保健給食課																
具体施策と実施状況	(こども保育課) ○保護者アンケートで「子どもに基本的な生活習慣が身に付いてきている」の項目での肯定的評価は90%となっている。園と家庭が連携した取組としてチャレンジカードを活用し継続的に実施したことで、保護者の意識が高まり成果につながっている。 (保健給食課) ○今年度も「おうちで作ろう!学校給食おすすめレシピ」をテーマにレシピ集を作成し全小中学校に配付。また、「レッツチャレンジクッキング」は小学校5年生～中学生を対象に「かんたんお手軽!津山の地場産物レシピ～津山産食材をおいしく食べよう!～」をテーマにレシピを募集し、応募のあった2,191点を展示、応募作品からレシピ集を作成し全小中学校に配布した。																		
目標達成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>朝食を毎日食べる子 【幼稚園】</td><td>90% 【R2】</td><td>92%</td><td>94%</td></tr><tr><td>朝食を毎日食べる子 【小学校(5年生)】</td><td>77.5% 【R2】</td><td>90%</td><td>84.6%</td></tr><tr><td>朝食を毎日食べる子 【中学校(2年生)】</td><td>73.3% 【R2】</td><td>85%</td><td>75.0%</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	朝食を毎日食べる子 【幼稚園】	90% 【R2】	92%	94%	朝食を毎日食べる子 【小学校(5年生)】	77.5% 【R2】	90%	84.6%	朝食を毎日食べる子 【中学校(2年生)】	73.3% 【R2】	85%	75.0%
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値																
朝食を毎日食べる子 【幼稚園】	90% 【R2】	92%	94%																
朝食を毎日食べる子 【小学校(5年生)】	77.5% 【R2】	90%	84.6%																
朝食を毎日食べる子 【中学校(2年生)】	73.3% 【R2】	85%	75.0%																
課題	(こども保育課) ◆家庭を巻き込んだ取組のため、各家庭の状況により数値にも影響があり、啓発活動を継続する必要がある。 (保健給食課) ◆食生活アンケートでは、昨年度に比べると小中学校とも朝食摂取率は増加しているが、目標値(小学校90%・中学校85%)には未達である。課題としては、児童生徒自身だけでなく保護者の意識向上や行動変容につながる、より効果的な啓発や取組を実施する必要がある。																		
今後の方向性	(こども保育課) ◇生活習慣の定着は個人差が大きい、幼児期は家庭での生活の仕方が幼児の生活リズムに大きく影響するため、幼児が健康な生活のリズムを身に付けることの大切さを保護者に繰り返し伝え、チャレンジカード等を活用した取組を継続していく。 (保健給食課) ◇生活習慣の見直しは、家庭(保護者)への働きかけが重要であることから、給食だよりの発行など例年実施している取組を継続すること、また、昨年度実施した保護者等を対象とした研修会も継続実施する。																		

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実									
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～									
ウ. 健やかな心と体の育成											
取 組		④教育活動を通じた食育の推進と「食べる力」の育成	担当課 保健給食課								
具体 施策と 実施 状況	○栄養教諭等は、学校へ食育関連の資料を提供したり、計画的に学校へ出向き給食時間や家庭科等の各授業において食に関する指導を行った。 ○家庭への給食だよりの配布は、各食育センターにおいて、学校を通じて給食献立表の配布と合わせ実施した。また、学校におけるPTA主催の給食試食会に参加し、児童の給食の状況等の周知・啓発を図った。 ○HP等情報ツールを活用し給食献立のレシピ紹介を行った。また、今年度も学校で児童生徒が視聴できる食に関した動画(野菜)を作成し、各学校での視聴を促した。 ○3校の中学生(生徒会・委員会)に給食に対する意見等について直接インタビューした。 ○学校給食を卒業する中学校3年生を対象とした食育メッセージカードを作成した。										
目標 達成 程度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>栄養教諭による食に関する指導 取組の1校当たりの回数 ※回数=全体の回数/35校</td><td>9回 (R2)</td><td>11回</td><td>11回</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	栄養教諭による食に関する指導 取組の1校当たりの回数 ※回数=全体の回数/35校	9回 (R2)	11回	11回
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値								
栄養教諭による食に関する指導 取組の1校当たりの回数 ※回数=全体の回数/35校	9回 (R2)	11回	11回								
課題	◆食に関する指導をより充実させ、自分自身の適正な食事量を把握することなど給食を含め生活において自ら実践できるよう児童生徒の意識向上を図る必要がある。 ◆学校でのPTAによる試食会や給食指導に参加し、給食に対する保護者の関心や活用の有無、他のニーズなどの調査を継続的に実施する必要がある。										
今後 の 方向 性	◇栄養教諭等による食に関する指導の回数が増やせるよう環境を整える。 ◇給食だよりの等啓発資料による保護者等の食や給食への認知度や給食関連動画の成果を把握するための調査を検討する。 ◇学校保健概要調査等を活用し、児童生徒の実態に基づいた献立提供について研究する。 ◇残り5校の中学生インタビューを実施し、児童生徒が適正な食事量を把握し自ら管理等できるような取組を継続していく。また、CS(コミュニティースクール)との連携の可能性について研究する。										

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実																	
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～																	
ウ. 健やかな心と体の育成																			
取 組		⑤地域の食文化の継承と魅力ある献立 づくり	担当課 保健給食課																
具体 施策 と 実施 状況	○契約栽培農家との価格協議や意見交換会を定期的に開催したり、献立作成の段階で野菜の使用量や収穫量の情報共有を行うことにより、献立への計画的な地場産野菜の使用につながった。 ○「津山・岡山食べようday(でえ～)」を毎月実施した。また、6月、11月の地場産週間や全国学校週間でも地場産物の積極的な使用に努めた。 ○津山産小麦を使用した学校給食用麺を2学期から提供した。 ○各小中学校と教育委員会は給食残食減少行動計画を作成し目標値を定め取り組んだ結果、全体では残食率及び牛乳残量率とも減少した。 ○牛乳残量減少(食ロス減少)につなげる具体的な取組として代替品の提供を中学校で2回、小学校で1回提供した。																		
	目標 達成 度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>年間を通して学校給食に地場産物を使用する割合 ※使用割合＝岡山県産品目数／全使用品目数×100</td><td>37.5% 【R2】</td><td>40%</td><td>41%</td></tr><tr><td>学校給食残食の割合 【小学校】</td><td>4.7% 【R2】</td><td>4%以下</td><td>4.8%</td></tr><tr><td>学校給食残食の割合 【中学校】</td><td>15.7% 【R2】</td><td>12%以下</td><td>14.6%</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	年間を通して学校給食に地場産物を使用する割合 ※使用割合＝岡山県産品目数／全使用品目数×100	37.5% 【R2】	40%	41%	学校給食残食の割合 【小学校】	4.7% 【R2】	4%以下	4.8%	学校給食残食の割合 【中学校】	15.7% 【R2】	12%以下
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値																
年間を通して学校給食に地場産物を使用する割合 ※使用割合＝岡山県産品目数／全使用品目数×100	37.5% 【R2】	40%	41%																
学校給食残食の割合 【小学校】	4.7% 【R2】	4%以下	4.8%																
学校給食残食の割合 【中学校】	15.7% 【R2】	12%以下	14.6%																
課題	◆契約栽培農家が給食用食材の栽培を持続的に取り組めるように、関係課等と連携した取組や仕組みづくりが進んでいない。 ◆残食減少については、一定程度の成果が出てきているが、今後も継続した取組が必要である。また、給食の喫食時間の不足(特に中学校)のような改善が困難な点について検討することや、児童生徒が自身の適正量を把握し、残さず食えることへつながる工夫、評価できる方法の十分な検討と対策の実施が必要である。																		
今後 の 方向 性	◇契約栽培農家との意見交換等を継続するとともに、課題(端境期対応・余剰野菜の対応など)解決につながる取組を関係課と連携し研究する。また、津山産小麦のパンへの活用について研究する。 ◇残食減少を目的として実施してきた各取組は児童生徒にも好評なことから継続する。 <具体的取組> 「もう一口食べよう!もぐもぐ木曜日」「リクエスト給食」「セレクト給食」「津山・岡山食べようday(でえ～)」「日本よいとこ味めぐり献立」 ◇牛乳残量減少につなげる取組として、代替品の提供回数を維持しつつ、他の代替品提供について研究する。また、牛乳提供のあり方についても研究する。																		

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実												
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～												
ウ. 健やかな心と体の育成														
取 組		⑥教育活動を通じた健康管理の推進	担当課 保健給食課											
具体 施策 と 実 施 状 況	○今年度も、本市の児童生徒の健康診断結果(肥満・痩せ・視力)の経年変化を取りまとめ、課題と活用について養護教諭と情報共有を図った。 ○市の公式LINEで定期的に健康課題(歯・肥満・目・定期健康診断)について情報配信を実施した。 ○小中学校における定期健康診断の内科健診や歯科検診等について、関係機関と協議し実施方法等を定め周知を図った。													
	目標 達成 度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>肥満割合【小学校】</td><td>11.5% (R2)</td><td>8%以内</td><td>12.1%</td></tr><tr><td>肥満割合【中学校】</td><td>10.9% (R2)</td><td>8%以内</td><td>11.1%</td></tr></table>		計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	肥満割合【小学校】	11.5% (R2)	8%以内	12.1%	肥満割合【中学校】	10.9% (R2)	8%以内
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値											
肥満割合【小学校】	11.5% (R2)	8%以内	12.1%											
肥満割合【中学校】	10.9% (R2)	8%以内	11.1%											
課題	◆肥満・痩せについては、R4年度数値と比較するとほぼ変動が無いことから、今後も引き続き、対象者には食事等生活習慣の改善の必要性に気づかせ、行動を変えることができるような取組を栄養教諭・養護教諭と情報共有しながら進めていく必要がある。													
今後 の 方向 性	◇食生活アンケートや健康診断結果の共有等の児童生徒の実態把握や情報発信、学校・関係機関との連携した取組を継続する。 ◇市の公式LINEで定期的に健康課題について情報配信を実施する。													

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実									
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～									
ウ. 健やかな心と体の育成											
取 組		⑦特別な配慮を必要とする幼児への支援	担当課 こども保育課								
具体 施策と 実施状 況	○公立幼稚園の特別支援室を活用し、自園の園児の構音指導を中心とした通級指導を実施した。幼稚園職員との連携が図りやすく日常保育の中での支援につなげることもできた。 ○個別の指導計画等として「津山市共通支援シート」を活用し、職員間の共通理解やインクルーシブな教育活動、関係機関との情報共有ができた。 ○通級指導経験者による日常的な相談・助言や園内研修を実施し、職員の専門性の向上につなげた。										
目標 達成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>特別支援教育に関する 研修回数（回／園）</td><td>12回</td><td>15回</td><td>15回</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	特別支援教育に関する 研修回数（回／園）	12回	15回	15回
	計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値							
特別支援教育に関する 研修回数（回／園）	12回	15回	15回								
課題	◆幼稚園の特別支援室の活用は、構音指導を中心とした園児に実施しているが、該当児が不在な場合があるため、障害種の対象を広げることも考える必要がある。 ◆指導計画等として「津山市共通支援シート」を活用する意識は高いが、該当児の必要な情報として記載すべき内容については、職員個々のスキルや専門性を高める必要がある。										
今後 の方向性	◇幼稚園の特別支援室の活用は、構音指導を中心とした自園の園児を対象に実施しているが、障害種の対象を広げることや他園の園児の受け入れも検討する。 ◇「津山市共通支援シート」の記載内容を充実させ、幼児一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導と必要な支援に十分活用できるように、さらに職員一人一人のスキルアップを図り、継続的な支援体制を構築する。										

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実								
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～								
ウ. 健やかな心と体の育成										
取 組		⑧特別支援教育の推進	担当課 学校教育課							
具体 施策と 実施 状況	○特別支援教育推事業として、特別支援教育推進センターを特別支援教育の中核施設として位置づけ、各校での教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実を図るために、特別支援教育ナビゲーター配置による各校への巡回相談の充実、通級による指導の充実を図った。 ○特別支援コーディネーター研修を開催し、個別の教育支援計画等の作成、校種間の引継ぎ等に関する研修を実施し、各校への指導・支援につなげた。 ○医療的ケアを必要とする児童生徒に対しては、自立して健康で安定した学校生活に向けた支援体制の充実を図った。									
目標 達成 度										
	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>「特別支援教育について理解し、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫を行った」と回答する割合(全国学習調査・学校質問紙)</td><td>41.9% (H30,R1,R3平均)</td><td>46%</td><td>60%</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	「特別支援教育について理解し、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫を行った」と回答する割合(全国学習調査・学校質問紙)	41.9% (H30,R1,R3平均)	46%
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値							
「特別支援教育について理解し、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫を行った」と回答する割合(全国学習調査・学校質問紙)	41.9% (H30,R1,R3平均)	46%	60%							
課題	◆目標値は達成できているが、特別支援教育の中核施設である「津山市特別支援教育推進センター」を核としながら、一貫した教育支援の観点から、各学校での特別支援教育の一層の充実が引き続き必要である。 ◆特別支援コーディネーターを対象とした研修会実施や特別支援教育ナビゲーターにより、各校の校内体制を把握し、各校の課題に応じた支援(資料提供を含む)を継続的に行ったことにより、各校の校内体制の充実につながったと考えられるが、今後は児童生徒の特性の把握と支援方法等についてより具体的な理解を促していく必要がある。									
今後 の 方向 性	◇「津山市特別支援教育推進センター」に引き続き2名(小中1名ずつ)の特別支援教育ナビゲーターを配置し、巡回相談活動や情報提供により、各校での実態に応じた研修を企画・実施することで特別支援教育の充実を図る。 ◇一貫した教育支援の観点から、児童生徒の個別の支援計画等の活用(引継ぎを含む)をより効果的に行う。 ◇各校において、校内支援体制を構築し、各校での特別支援教育の視点からの指導の充実を図るために、特別支援教育コーディネーターを中心とした研修等を一層充実させる。 ◇通級による指導を拡大するために、高野小学校と津山東中学校内にサテライト教室を開設し、推進センターより指導者を派遣することで、校内教職員の特別支援教育の専門性向上を図る。									

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実													
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～													
ウ. 健やかな心と体の育成															
取 組		⑨長期欠席・不登校への対策	担当課 学校教育課												
具体 施策と 実施 状況	○生徒指導・不登校対策事業として、個々の生徒の状況に応じた学習支援や生活支援等の充実を図るため「新たな居場所（別室）」を設置し、常駐の教員と支援員を市内4中学のモデル校へ配置した。（R4；2校 R5；4校） ○各校において、岡山型長期欠席・不登校対策スタンダードに基づいて児童生徒の欠席状況などの変化や背景を校内で共有し、丁寧な支援を進めた。 ○不登校児童生徒の多様な学びの機会の一つである学びの多様化学校の設置に向けて、令和5年度のスケジュールを策定し、検討を行った。														
目標 達成 度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>長期欠席者数(人) (欠席日数30日以上) ※病気等含む</td><td>【小】 95 【中】 182 (R2)</td><td>【小】 82 【中】 178</td><td>【小】 168 【中】 257</td></tr><tr><td>全国調査「学校に行くのは楽しい」 の項目で最上位回答をした児童生徒の割合</td><td>【小6】 41.5% 【中3】 40.1%</td><td>【小6】 44% 【中3】 42%</td><td>【小6】 50.1% 【中3】 39.8%</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	長期欠席者数(人) (欠席日数30日以上) ※病気等含む	【小】 95 【中】 182 (R2)	【小】 82 【中】 178	【小】 168 【中】 257	全国調査「学校に行くのは楽しい」 の項目で最上位回答をした児童生徒の割合	【小6】 41.5% 【中3】 40.1%	【小6】 44% 【中3】 42%	【小6】 50.1% 【中3】 39.8%
	計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値											
長期欠席者数(人) (欠席日数30日以上) ※病気等含む	【小】 95 【中】 182 (R2)	【小】 82 【中】 178	【小】 168 【中】 257												
全国調査「学校に行くのは楽しい」 の項目で最上位回答をした児童生徒の割合	【小6】 41.5% 【中3】 40.1%	【小6】 44% 【中3】 42%	【小6】 50.1% 【中3】 39.8%												
課題	◆不登校出現率が小中学校共に高い状態が続いている。その要因として、新型コロナウイルス感染症による欠席が増加したためと考えられる。 ◆「新たな居場所（別室）」設置校の取組を津山市内各学校へ広げることで、市内全体で個々の状況に応じた学習・生活支援の実施や、別室教室への復帰や学校への足がかりを目指す等、居場所を求める生徒への支援を行い、不登校の未然防止を一層努める必要がある。 ◆学びの多様化学校の設置等、本市が目指す不登校児童生徒の多様な学びの機会整備について検討する必要がある。														
今後 の 方向 性	◇中学校における新たな居場所（別室）づくりの充実を図り、長期欠席・不登校児童生徒等へ支援について学校と共通理解を図り、関係機関と連携し、支援のネットワークを広げる。 ◇各中学校ブロックごとに長期欠席・不登校の児童生徒を支援する小中連携を強化するとともに、不登校児童生徒の保護者支援として「おやとおやの会」を新たに実施する。 ◇学びの多様化学校の設置を見据えた視察等による先進事例の収集、不登校生徒やその保護者、支援者等へのヒアリングを行い、本市が目指す不登校児童生徒の多様な学びの機会の方向性を定め、設置に向けた準備を進める。 ◇小学校において、複数の教員（目）で、きめ細やかな指導ができる環境づくりを行うため、学年担任制を全校に導入する。														

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実									
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～									
ウ. 健やかな心と体の育成											
取 組		⑩子ども・若者の社会参加、自立支援	担当課	次世代育成課							
具体 施策 と 実 施 状 況	○子ども・若者の社会参加及び自立支援のため、津山市子ども・若者支援地域協議会を、切れ目のない支援や関係部署や関係機関等との連携につながるよう、令和5年度に1回開催した。 ○ひきこもり状態の人及び不登校生徒の家庭訪問を行い、本人や家族との面談等を実施した。 ○ひきこもりへの地域理解を進めるため、市民や支援者へ向けた講演会を開催した。 ○孤立することなく集い、交流する場として当事者・家族の会を3回開催した。										
目標 達成 度											
	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>中学卒業後の支援同意書提出数 ※進路未決定者を含む</td><td>R3年3月 卒業生3人</td><td>5人以上</td><td>3人</td></tr></table>				計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	中学卒業後の支援同意書提出数 ※進路未決定者を含む	R3年3月 卒業生3人	5人以上
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値								
中学卒業後の支援同意書提出数 ※進路未決定者を含む	R3年3月 卒業生3人	5人以上	3人								
課題	◆青少年育成センターが支援対象者と中学校卒業後も関わりが途切れないように、中学校と青少年育成センターとの連携を今以上に図っていく必要がある。										
今後 の 方 向 性	◇青少年育成センターと支援対象者がつながれるよう、中学校と連携し、卒業前にケース会議や訪問相談等を実施する。 ◇今年度より全庁的な体制整備が進められている重層支援に関連した共通様式シート(つなぐシート)を活用し、関係部署等との情報共有や連携した支援を行う。 ◇津山市子ども・若者支援地域協議会の調整機関及び相談窓口としての周知徹底を図り、子ども・若者の社会参加及び自立支援を継続して実施していく。また、子ども・若者支援地域協議会を開催し、関係部署や関係機関との連携のさらなる強化に努める。 ◇ひきこもりに対する地域理解を進めるための講演会を開催(1回)する。また、当事者の交流等を目的に家族の会を実施(3回)する。										

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実								
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～								
ウ. 健やかな心と体の育成										
取 組		⑪児童生徒の相談・支援体制の充実	担当課 次世代育成課							
具体 施策と 実施 状況	○多様化・深刻化する相談内容に対応するため、鶴山塾、青少年育成センター、津山市新たな居場所連絡協議会などの関係機関と連携し、相談助言及び支援活動に取り組んだ。 ○鶴山塾では、令和5年度に12人に対して110回の訪問支援を実施した。 ○鶴山塾では、コロナ禍において中止していた体験活動やボランティアとのふれあい活動を再開し、子どもたちの社会的自立に向けてのさまざまな体験活動の充実をはかった。									
	目標 達成 程度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>不登校児童生徒のアウトリーチ型支援（訪問支援）によるひきこもり改善率（通塾等への改善ケース/訪問支援ケース）</td><td>20% (R2)</td><td>40%</td><td>33%</td></tr></table>		計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	不登校児童生徒のアウトリーチ型支援（訪問支援）によるひきこもり改善率（通塾等への改善ケース/訪問支援ケース）	20% (R2)	40%
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値							
不登校児童生徒のアウトリーチ型支援（訪問支援）によるひきこもり改善率（通塾等への改善ケース/訪問支援ケース）	20% (R2)	40%	33%							
課題	◆鶴山塾の支援内容や活動内容等の小中学校での認知状況等について、通塾生の有無や、教員の市外からの人事異動等により、差があるように感じる。児童生徒への支援の選択肢を広げるためにも、小中学校に対し、鶴山塾についてさらに理解を深めてもらえるよう働きかけることが必要である。 ◆鶴山塾でのICT活用による支援について、十分整理がなされておらず、実施できていない。通塾生の状況や意向、支援上の必要性、手法等の観点から整理を行っていく必要がある。									
今後 の 方向 性	◇令和6年度の津山市小中学校長期欠席・不登校対策協議会の立上げや地域包括ケア推進室を中心とした全庁的な重層的支援体制の構築開始により、関係部署及び関係機関の連携がいっそう強まるため、より充実した体制のもとで、引き続き子どもの課題解決および社会的自立に向けた取り組みを行う。 ◇津山市小中学校長期欠席・不登校対策協議での説明や、鶴山塾職員による学校への個別訪問等により、これまで以上に鶴山塾の取り組みや支援内容について周知を図る。 ◇鶴山塾でのICT活用による支援について、子どもや保護者の意向・状況を勘案した上で、手法について整理を進めていく。									

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実									
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～									
ウ. 健やかな心と体の育成											
取 組	⑫青少年育成センターの機能の充実 (専門的知見の活用)	担当課	次世代育成課								
具体施策と実施状況	○ケース会議において、アドバイザーとして専門家から13回の助言を得た。										
目標達成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>会議等における専門家招へい回数</td><td>10回 (R2)</td><td>12回</td><td>13回</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	会議等における専門家招へい回数	10回 (R2)	12回	13回
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値								
会議等における専門家招へい回数	10回 (R2)	12回	13回								
課題	◆複合的な課題や困難さを抱えた事案に効果的に取り組めるよう青少年育成センターのみならず、庁内関係課、関係機関も含めて、今後もより一層、専門的知見の有効活用を図る必要がある。										
今後の方向性	◇今年度より全庁的整備が進められている重層的支援体制により、関係部署・機関の連携がさらに強まること等から、専門家の知見がさらに有効に活用されることが期待される。 ◇鶴山塾との情報共有、連携及び相互支援等により、複合的な課題に対し、効果的に対応できるよう青少年育成センターの機能を充実させていく。										

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実									
(Ⅰ) 自立		～自立して、自己の将来を切り拓き、 たくましく生きていけるひとを育てる～									
ウ. 健やかな心と体の育成											
取 組		⑬青少年の体験活動の推進	担当課 次世代育成課								
具体施策と実施状況	○津山市子ども会連合会の事務局として、同団体が主催する育成指導員研修会を支援した。同研修会は、市内各地域の子ども会の育成指導員を対象にしたもので、テント設営や野外調理の実習を行い、野外活動を安全に楽しむコツの習得を目的としている。更に例年実施している「つやま子ども野外塾」では一泊のキャンプを実施した。										
目標達成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>津山市子ども会連合会指導者研修会の参加率（参加団体数/登録団体数）</td><td>7.2% (R1) ※R2は中止</td><td>8%以上</td><td>5.5%</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	津山市子ども会連合会指導者研修会の参加率（参加団体数/登録団体数）	7.2% (R1) ※R2は中止	8%以上	5.5%
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値								
津山市子ども会連合会指導者研修会の参加率（参加団体数/登録団体数）	7.2% (R1) ※R2は中止	8%以上	5.5%								
課題	◆津山市子ども会連合会において、講師役を務めることのできる人材が限られており、後継者の育成が必要である。										
今後の方向性	◇指導者研修会の実施など、後継人材育成の観点も加えた事業を進める。 ◇今後も津山市子ども会連合会との連携を継続し、青少年の自主性や創造性を育んでいく。										

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実													
(2) つながり		～ 社会の中で広い視野を持ち、人や地域とつながり、 互いを認め合って生きていけるひとを育てる～													
ア. 自他を尊重する心の育成															
取 組		①グローバル化に対応する教育の推進	担当課 学校教育課												
具体 施策 と 実 施 状 況	○確かな学力向上事業（英語力向上事業）において、英語指導スーパーバイザー（同志社大学准教授）を招聘し、小中学校教員の指導力向上を図った。また、専門機関（ブリティッシュカウンシル）を活用した中学校教員を対象とした研修を実施し、指導力向上を図った。 ○外国籍の日本語指導が必要な児童生徒に、市費非常勤講師が専門性を生かして日本語指導を行った。 ○英語活動講師派遣事業により、ALTの増員を行い、各校への配当時間を増やし、ALTと児童生徒が関わる時間を増やすことができた。														
目標 達成 度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>全国調査「学校の授業以外で、英語を使う機会がある」の項目で肯定的な回答する割合</td><td>【小6】40.9% 【中3】32.9%</td><td>【小6】43% 【中3】35%</td><td>【小6】46.1% 【中3】25.6%</td></tr><tr><td>英語暗唱大会の発表者数</td><td>8</td><td>17</td><td>14</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	全国調査「学校の授業以外で、英語を使う機会がある」の項目で肯定的な回答する割合	【小6】40.9% 【中3】32.9%	【小6】43% 【中3】35%	【小6】46.1% 【中3】25.6%	英語暗唱大会の発表者数	8	17	14
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値												
全国調査「学校の授業以外で、英語を使う機会がある」の項目で肯定的な回答する割合	【小6】40.9% 【中3】32.9%	【小6】43% 【中3】35%	【小6】46.1% 【中3】25.6%												
英語暗唱大会の発表者数	8	17	14												
課題	◆児童生徒の英語によるコミュニケーション力などの英語力に課題が見られ、その改善に向けた授業改善が必要である。 ◆外国籍の日本語指導を必要とする児童生徒が増加しており、指導機会の確保が急務である。 ◆ALTとの連携が学校により不十分なところがある。														
今後 の 方 向 性	◇専門機関（ブリティッシュカウンシル）を活用した中学校教員を対象の専門研修を継続し、教員の指導力向上を図り、授業改善を推進する。 ◇日本語指導の職員の予算を確保し、市内での計画的な指導体制を構築する。 ◇津山市学校教育研究センターの外国語部会、英語部会と連携しながらALTとの連携を深め、国際理解の推進を図る。														

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実									
(2) つながり		～ 社会の中で広い視野を持ち、人や地域とつながり、 互いを認め合って生きていけるひとを育てる～									
ア. 自他を尊重する心の育成											
取 組	②多様性を認め他者を思いやる心の育成 (人権教育の推進)	担当課	学校教育課								
具体 施策と 実施状 況	○児童生徒の発達段階に応じて、人権教育年間指導計画を作成し、人権課題を明確にした授業の実践を進めた。 ○津山市社会福祉協議会、津山市保幼小中人権教育研究協議会等、関係機関と連携し、車いす体験などの体験学習や、障害者、外国籍の方などとの交流を通じた学習など、人権教育の具体的な取組を行った。										
目標 達成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>全国調査「人が困っているときは、進んで助けている」の項目で肯定的な回答(最上位の回答)をした児童生徒の割合</td><td>【小6】35.9% 【中3】39.2%</td><td>【小6】43% 【中3】45%</td><td>【小6】44.3% 【中3】35.1%</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	全国調査「人が困っているときは、進んで助けている」の項目で肯定的な回答(最上位の回答)をした児童生徒の割合	【小6】35.9% 【中3】39.2%	【小6】43% 【中3】45%	【小6】44.3% 【中3】35.1%
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値								
全国調査「人が困っているときは、進んで助けている」の項目で肯定的な回答(最上位の回答)をした児童生徒の割合	【小6】35.9% 【中3】39.2%	【小6】43% 【中3】45%	【小6】44.3% 【中3】35.1%								
課題	◆中学校においては、目標値より低くなっている。要因は、実践的な取組が不足していると考えられるので、道徳、総合的な学習、特別活動を中心に、児童生徒が主体となり実践力を育むような人権教育の取組を進める必要がある。 ◆「非認知能力」や「LGBTQ性の多様性」について外部講師を招聘し講演等を実施したが、取組の計画や実施が学校によって差がある。										
今後 の方向性	◇校内研修や学校行事等を通して、児童生徒の自己肯定感、自己有用感、共感的な人間関係性を育めるよう、児童生徒が主体となる人権教育を推進する。 ◇児童生徒の発達段階に応じて、人権教育年間指導計画を作成し、人権課題を明確にした授業や教科横断的な実践を推進する。 ◇津山市社会福祉協議会、津山市保幼小中人権教育研究協議会等、関係機関と連携し、車いす体験などの体験学習や、障害者、外国籍の方などとの交流を通じた学習など、人権教育の具体的な取組を推進する。										

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実													
(2) つながり		～ 社会の中で広い視野を持ち、人や地域とつながり、 互いを認め合って生きていけるひとを育てる～													
ア. 自他を尊重する心の育成															
取 組		③いじめ・暴力行為への対策	担当課 学校教育課												
具体 施策と 実施 状況	○各校で定期的に調査を行っている「児童生徒アンケート」や各校からの月例報告（「いじめ・暴力行為・長期欠席不登校」）を活用し、いじめ解消への具体的な手立てや、暴力行為の発生に至った背景を丁寧に読み解き、落ち着いた学級集団づくりに取り組んだ。 ○学校が「学校いじめ問題対策基本方針」に基づいて、適切な対処が組織的にできるよう、校園長会議や各担当者会等で働きかけ、いじめの積極的な認知と未然防止の取組を進めた。 ○「SNSノートおおさか」の活用を学校へ促し、年間を通じてインターネットを介したいじめの防止や情報モラル教育の充実に取り組んだ。														
目標 達成 度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>問題行動等調査における「暴力行為発生件数」(件)</td><td>【小】 7件 【中】16件 (R2)</td><td>【小】 6件 【中】12件</td><td>【小】 6件 【中】 5件 (R4)</td></tr><tr><td>全国調査「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目で肯定的回答をした児童生徒の割合</td><td>【小6】94.9% 【中3】97.0%</td><td>【小6】97% 【中3】99%</td><td>【小6】96.9% 【中3】97.3%</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	問題行動等調査における「暴力行為発生件数」(件)	【小】 7件 【中】16件 (R2)	【小】 6件 【中】12件	【小】 6件 【中】 5件 (R4)	全国調査「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目で肯定的回答をした児童生徒の割合	【小6】94.9% 【中3】97.0%	【小6】97% 【中3】99%	【小6】96.9% 【中3】97.3%
	計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値											
問題行動等調査における「暴力行為発生件数」(件)	【小】 7件 【中】16件 (R2)	【小】 6件 【中】12件	【小】 6件 【中】 5件 (R4)												
全国調査「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目で肯定的回答をした児童生徒の割合	【小6】94.9% 【中3】97.0%	【小6】97% 【中3】99%	【小6】96.9% 【中3】97.3%												
課題	◆「暴力行為発生件数」は目標値を達成しているが、いじめの対応等が学校によって差があり、校内における情報共有や対応のあり方等見直す必要がある。 ◆「Netモラルデジタル教材」「SNSノートおおさか」等の教材テキストの活用等が不十分な学校があり、いじめの未然防止に向けて計画的、継続的に情報モラル教育を推進する必要がある。														
今後 の 方向 性	◇「津山市いじめ問題基本方針」に基づき、いじめの未然防止、積極的認知、早期対応に努めるとともに、組織的な対応ができるよう、校園長会議や各担当者会等で周知を徹底する。 ◇SNS等、インターネットを介したいじめの未然防止に向けて、年間を通じて計画的、継続的に「Netモラルデジタル教材」「SNSノートおおさか」等の教材テキストを活用例を紹介するなどして横展開し、情報モラル教育の充実に取り組む。 ◇健全育成対策室との連携による学校への訪問や情報共有等、平素から児童生徒の規範意識の向上を目指す。														

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実								
(2) つながり		～ 社会の中で広い視野を持ち、人や地域とつながり、 互いを認め合って生きていけるひとを育てる～								
イ. 人や地域との豊かな人間関係の構築										
取 組		①幼児教育における地域との交流活動 の推進	担当課 こども保育課							
具 体 施 策 と 実 施 状 況	○つやま西幼稚園では公民館併設の利点を生かし二宮公民館や二宮地区老人会との交流が実施できた。 ○コロナが5類になり、少しずつ交流や地域の人々の来園が増えた。地域の人々を招き、七夕やとんどなどの伝統行事や、野菜の苗植え、もちつき等を実施した園もある。地域の人々とかかわることで、地域の人々への感謝の気持ちや親しみの気持ちが芽生えている。 ○つやま東幼稚園と勝北風の子こども園との交流会を2回初めて実施した。互いの園を行き来して、園環境に触れ友達との関わりの幅も広がった。									
	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>交流活動の実施回数 (回／園)</td><td>3回</td><td>6回</td><td>13回</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	交流活動の実施回数 (回／園)	3回	6回
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値							
交流活動の実施回数 (回／園)	3回	6回	13回							
課 題	◆つやま東幼稚園は近隣保育園との交流活動が未実施									
今 後 の 方 向 性	◇つやま東幼稚園は保育園との交流活動が未実施であるが、今後できるところから交流活動を検討する。 ◇今後も様々な人々と触れ合える機会を設け、園児が地域の方と一緒に伝統行事を行ったり、地域の方と活動したりする中で、親しみや楽しさを感じられるようにしていく。									

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実			
(2) つながり		～ 社会の中で広い視野を持ち、人や地域とつながり、 互いを認め合って生きていけるひとを育てる～			
Ⅰ. 人や地域との豊かな人間関係の構築					
取 組		②コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の推進	担当課 学校教育課		
具体 施策 と 実 施 状 況	○津山東中学校・鶴山小学校・勝北中学校に続き、15小中学校でコミュニティ・スクールを開始した。学校運営協議会では、学校運営基本方針承認、年間計画、具体的活動、学力向上の取組、校則・部活動・不登校・いじめに関する協議や、授業参観、給食試食会等を実施した。主な地域学校協働活動として、中学校区あいさつ一斉運動、中学生による公民館講座開設、地域の夏祭り参画等。				
	成果 ・学校運営協議会委員となることにより、学校への理解が促進した。 ・中学生による公民館講座開設、夏祭り参画等新たな取組が広がった。 ・地域住民の意見が生かされ、地域学校協働活動との連動ができつつある。				
目 標 達 成 度	計画中の指標		計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値
	コミュニティ・スクールを設置している学校数(累計)		1	16	18
	アンケートで「学校運営協議会委員となることにより、学校への理解が深まった」と回答した学校運営協議会委員の割合		—	100%	97%
課 題	◆学校の重点取組や喫緊の課題に対して学校運営協議会の中で共有し、対応を協議する場の設定が不十分であったため、学校運営協議会委員の理解が深まらなかった面がある。				
	◆生涯学習担当部署等と教育委員会のより一層の連携強化が求められる。				
今 後 の 方 向 性	令和6年度より全小中学校へのコミュニティ・スクール導入に伴い、以下を重点に取り組む。				
	◇双方向による情報発信をする。 ・本校のコミュニティ・スクールの特徴等を発信 ・学校とともに学校運営協議会からも発信 ◇年内には全校で「熟議の場」を設定する。 ・学校運営協議会の自立型姿勢を促し、学校だけでは解決困難な事例への対応を協力依頼するため、実態や課題について積極的に情報提供し、協議を実行 ◇当事者意識の醸成を図る。 ・地域と学校が協働して行う企画運営 ・それぞれの課題意識による意見交流の場 ・公民館講座等との連携				

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実													
(2) つながり		～ 社会の中で広い視野を持ち、人や地域とつながり、 互いを認め合って生きていけるひとを育てる～													
イ. 人や地域との豊かな人間関係の構築															
取 組		③地域学校協働活動による社会性の育成 と家庭教育の啓発	担当課 学校教育課												
具体 施策 と 実 施 状 況	○地域学校協働本部事業では、地域学校協働活動推進員を全校に委嘱し、地域学校協働活動を進めることができた。 ○地域学校協働活動推進員を対象とした研修会を実施し、日頃の実践の情報共有やコミュニティ・スクール導入についての協議等を行った。 ○家庭教育支援チームの研修会を6回に増やして実施するとともに、ホームページやチラシ等により家庭教育に関する情報発信を行った。														
目 標 達 成 度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>全国調査「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の項目で肯定的な回答をした児童生徒の割合</td><td>【小6】69.8% 【中3】52.0%</td><td>【小6】76% 【中3】56%</td><td>【小6】72% 【中3】46%</td></tr><tr><td>放課後子ども教室数</td><td>17</td><td>21</td><td>21</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	全国調査「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の項目で肯定的な回答をした児童生徒の割合	【小6】69.8% 【中3】52.0%	【小6】76% 【中3】56%	【小6】72% 【中3】46%	放課後子ども教室数	17	21	21
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値												
全国調査「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の項目で肯定的な回答をした児童生徒の割合	【小6】69.8% 【中3】52.0%	【小6】76% 【中3】56%	【小6】72% 【中3】46%												
放課後子ども教室数	17	21	21												
課 題	◆全国調査「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の項目で肯定的な回答をした児童生徒の割合は全国平均を8～14%程度上回っているが、目標値は達成できていない。特に、中学校の割合が下がっている。地域の大人との関わりがコロナ禍の影響もあり減少してきていると推察される。														
今 後 の 方 向 性	◇地域学校協働活動やつやま郷土学等を通して、郷土愛の醸成や自己肯定感向上を図るとともに、PTA（津山市PTA連合会）や学校運営協議会（コミュニティ・スクール）とも連携を図り、地域行事への一層の参加を促したい。教育委員会として、夢育講座・中学生こみゅ等の事業を年度内に実施し、地域の大人との関わりを意図的に増やし、地域行事への一層の参加を目指す。 ◇コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を図り、地域人材による学校行事や学習の支援、環境整備、通学の見守り活動等を行います。														

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実								
(2) つながり		～ 社会の中で広い視野を持ち、人や地域とつながり、 互いを認め合って生きていけるひとを育てる～								
イ. 人や地域との豊かな人間関係の構築										
取 組		④青少年の健全育成を支える地域社会 の構築	担当課 次世代育成課							
具体 施策と 実施状 況	○令和5年度も「津山っ子こころのふれあいトーク」及び「街づくり人づくりクリーン作戦アピール集会」を実施し、青少年健全育成の共通理解を深めた。 ○鶴山塾においては、農園作業などの地域ボランティア等が実施する体験活動や学びを通じて、児童生徒が達成感や自己有用感を実感し、お互いを認め合い、自己肯定感を高められるよう支援した。									
	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>青少年健全育成に関する理解の向上（「津山っ子こころのふれあいトーク」参加者アンケートで「事業からの学びがあった」と回答した者の率）</td><td>90%</td><td>90%以上</td><td>91%</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	青少年健全育成に関する理解の向上（「津山っ子こころのふれあいトーク」参加者アンケートで「事業からの学びがあった」と回答した者の率）	90%	90%以上
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値							
青少年健全育成に関する理解の向上（「津山っ子こころのふれあいトーク」参加者アンケートで「事業からの学びがあった」と回答した者の率）	90%	90%以上	91%							
課題	◆津山っ子を守り育てる市民の会及び津山市青少年育成指導員は主に各中学校ブロックで独自に活動しているため、団体間、あるいは同一団体であっても、ブロック間の情報共有や連携した活動が不十分な場合がある。 ◆鶴山塾のボランティアに関わってくださる方について、高齢化等から、少しずつ人数が減少している。									
今後の方向性	◇津山っ子を守り育てる市民の会及び津山市青少年育成指導員連絡会において、合同役員会等により、それぞれの活動について共有と理解を深め、良い取り組みについては横展開を図る等、活動の充実に取り組む。 ◇今後も健全育成団体などとの連携により、青少年の健全育成を支える地域社会の構築に努めていく。 ◇鶴山塾のボランティアについては、ホームページ等での情報発信はもちろんのこと、ボランティアマッチング会への参加、施設見学に来られた方への情報提供等、新規募集に努める。									

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実																	
(2) つながり		～ 社会の中で広い視野を持ち、人や地域とつながり、 互いを認め合って生きていけるひとを育てる～																	
ウ. 道徳性や規範意識の醸成																			
取 組		①規範意識の醸成・向上	担当課 こども保育課 学校教育課 次世代育成課																
具体 施策と 実施 状況	(こども保育課) ○幼児期に道徳性や規範意識の芽生えを育むために、学級や園全体の生活や遊びを通して、幼児が実 体験している場面を逃さずに適切な援助を行うよう努めている。 (学校教育課) ○校則や制服を自分たちのものとして捉え、主体的な態度で向き合い、自分たちで決めたきまり等を守 ろうとする姿勢を育むために、生徒会活動等を充実させ、全ての学校で校則等の見直しを図り、児童生 徒が主体性を発揮した取組を行った。 ○児童会・生徒会など自発的活動を充実させ、魅力ある学校づくりの推進を図った。 ○問題行動や非行等への早期解決のため、学校における組織的対応と関係機関との連携を図った。 (次世代育成課) ○あいさつ運動や学校訪問を実施し、規範意識の醸成、向上を図った。																		
目標 達成 度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>保護者アンケート「約束やきまりが分かり、 守ろうとしていますか」の項目で肯定的な回 答をした保護者の割合【幼稚園】</td><td>97%</td><td>98%</td><td>98%</td></tr><tr><td>県調査「学校のきまり(規則)を守っていた」 の項目で肯定的な回答(最上位の回答)を した児童生徒の割合</td><td>【小5】35.9% 【中1】51.0% 【中2】59.6%</td><td>【小5】42% 【中1】56% 【中2】64%</td><td>未測定(県調査に 質問項目無)</td></tr><tr><td>全国調査「地域や社会をよくするために何を すべきかを考えることがある」の項目で肯定 的な回答をした児童生徒の割合</td><td>【小6】44.7% 【中3】42.7%</td><td>【小6】51% 【中3】47%</td><td>【小6】78.4% 【中3】56.7%</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	保護者アンケート「約束やきまりが分かり、 守ろうとしていますか」の項目で肯定的な回 答をした保護者の割合【幼稚園】	97%	98%	98%	県調査「学校のきまり(規則)を守っていた」 の項目で肯定的な回答(最上位の回答)を した児童生徒の割合	【小5】35.9% 【中1】51.0% 【中2】59.6%	【小5】42% 【中1】56% 【中2】64%	未測定(県調査に 質問項目無)	全国調査「地域や社会をよくするために何を すべきかを考えることがある」の項目で肯定 的な回答をした児童生徒の割合	【小6】44.7% 【中3】42.7%	【小6】51% 【中3】47%	【小6】78.4% 【中3】56.7%
	計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値															
保護者アンケート「約束やきまりが分かり、 守ろうとしていますか」の項目で肯定的な回 答をした保護者の割合【幼稚園】	97%	98%	98%																
県調査「学校のきまり(規則)を守っていた」 の項目で肯定的な回答(最上位の回答)を した児童生徒の割合	【小5】35.9% 【中1】51.0% 【中2】59.6%	【小5】42% 【中1】56% 【中2】64%	未測定(県調査に 質問項目無)																
全国調査「地域や社会をよくするために何を すべきかを考えることがある」の項目で肯定 的な回答をした児童生徒の割合	【小6】44.7% 【中3】42.7%	【小6】51% 【中3】47%	【小6】78.4% 【中3】56.7%																
課題	(こども保育課) ◆幼児期は低年齢であるため、特に各年齢に応じて分かりやすく伝える工夫が必要である。 (学校教育課) ◆児童会や生徒会等の自発的、主体的活動が不十分なところがある。 ◆児童生徒に校則等について考える機会、見直しを推進する場の提供を引き続き行う必要がある。 (次世代育成課) ◆元気よく進んであいさつする児童生徒の割合が少ない。																		
今後 の 方向 性	(こども保育課) ◇幼児期は体験を通して学ぶため、機会を捉えて幼児と共に考える姿勢を意識して関わる。職員の対応 の仕方が異ならないよう、園内で幼児の発達に応じた道徳性や規範意識芽生えを共有する。 (学校教育課) ◇校則や制服を自分たちのものとして捉え、主体的な態度で向き合い、自分たちで決めたきまり等を守 ろうとする姿勢を育むために、校則等の見直しを引き続き推進する。 ◇児童会や生徒会等の自発的、主体的活動を充実させ、魅力ある学校づくりの推進を図る。 ◇問題行動等への早期解決のため、学校における組織的対応と関係機関との連携を図る。 (次世代育成課) ◇児童会や生徒会、PTA、地域の青少年育成団体等のあいさつ運動等の取組を支援する。																		

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実													
(2) つながり		～ 社会の中で広い視野を持ち、人や地域とつながり、 互いを認め合って生きていけるひとを育てる～													
ウ. 道徳性や規範意識の醸成															
取 組		②道徳心の育成	担当課 学校教育課												
具体施策と実施状況	○各学校においては「考え議論する道徳」の主旨を踏まえ、教科化された道徳の授業を推進した。また、小中学校1校ずつを道徳教育研究校に指定したり、道徳推進教師を対象とした研修会を実施したりすることを通して、道徳科の授業の充実を図った。														
目標達成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>保護者アンケート「相手を思いやる気持ちが芽生えてきましたか」の項目で肯定的な回答をした保護者の割合【幼稚園】</td><td>97%</td><td>98%</td><td>98%</td></tr><tr><td>全国調査「道徳の授業では、自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」の項目で最上位回答をした児童生徒の割合</td><td>【小6】43.2% 【中3】53.3%</td><td>【小6】45% 【中3】55%</td><td>未測定（全国調査に質問項目無）</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	保護者アンケート「相手を思いやる気持ちが芽生えてきましたか」の項目で肯定的な回答をした保護者の割合【幼稚園】	97%	98%	98%	全国調査「道徳の授業では、自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」の項目で最上位回答をした児童生徒の割合	【小6】43.2% 【中3】53.3%	【小6】45% 【中3】55%	未測定（全国調査に質問項目無）
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値												
保護者アンケート「相手を思いやる気持ちが芽生えてきましたか」の項目で肯定的な回答をした保護者の割合【幼稚園】	97%	98%	98%												
全国調査「道徳の授業では、自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」の項目で最上位回答をした児童生徒の割合	【小6】43.2% 【中3】53.3%	【小6】45% 【中3】55%	未測定（全国調査に質問項目無）												
課題	◆各学校においては「考え議論する道徳」の主旨を踏まえ、授業を推進しているが、市内での実践交流等が学校教育センターのみで行われており、今後各校の実践で横展開するなどして、推進を図る必要がある。														
今後の方向性	◇引き続き、道徳教育や情報モラル教育の充実を通じて、児童生徒が人としての在り方や生き方について学び、多様な価値観を認識しながら自ら考え、判断し、より良く生きるための資質や能力の育成を図る。 ◇市内小中学校の「考え議論する道徳」の優れた実践を校園長会議等で横展開する。														

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実									
(2) つながり		～ 社会の中で広い視野を持ち、人や地域とつながり、 互いを認め合って生きていけるひとを育てる～									
ウ. 道徳性や規範意識の醸成											
取 組		③スマートフォン、インターネット対策の推進	担当課 学校教育課								
具体 施策と 実施 状況	○SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）等、インターネットを介したいじめの未然防止に向けて、年間を通じて計画的に、小中学校教科充実事業による、「Netモラルデジタル教材」や、「SNSノートおおさか」等の教材テキストを活用するなど、情報モラル教育の充実に取り組んだ。 ○学校での情報モラル教育が、生徒会の主体的な取組となるよう、県教委主催の「スマホサミット」への積極的な参加を推進した。 ○児童生徒や保護者に、携帯電話やスマートフォン、SNS等の危険性と適切な使用（ルールづくり）について指導や啓発（ノーメディア週間の取組等）を全校で継続して行った。また、地区懇談会等で、家庭や地域へ向け、利用実態の周知及び家庭ルール作りの啓発を行った。										
目標 達成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>スマホ等利用調査「家庭のルールがある」の項目で肯定的な回答をした児童生徒の割合</td><td>【小5】61.9% 【中2】57.5% (R2)</td><td>【小5】64% 【中2】59%</td><td>【小5】65.6% 【中2】57.5%</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	スマホ等利用調査「家庭のルールがある」の項目で肯定的な回答をした児童生徒の割合	【小5】61.9% 【中2】57.5% (R2)	【小5】64% 【中2】59%	【小5】65.6% 【中2】57.5%
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値								
スマホ等利用調査「家庭のルールがある」の項目で肯定的な回答をした児童生徒の割合	【小5】61.9% 【中2】57.5% (R2)	【小5】64% 【中2】59%	【小5】65.6% 【中2】57.5%								
課題	◆「Netモラルデジタル教材」「SNSノートおおさか」等の教材テキストの活用等、情報モラル教育の取組に差があり、好事例を横展開するなどして、計画的、継続的な取組の推進が必要である。 ◆家庭、地域との連携が不十分なところがあり、積極的な情報発信を図り、利用実態の周知及び家庭ルール作りの啓発を継続的に推進していく必要がある。 ◆道徳や総合的な学習等において、児童生徒が課題意識がもてるような取組や活動を充実していく必要がある。										
今後 の 方向 性	◇SNS等、インターネットを介したいじめの未然防止に向けて、「Netモラルデジタル教材」「SNSノートおおさか」等の教材テキストを活用するなど、情報モラル教育の充実に取り組む。 ◇児童生徒や保護者を交えた意見交流の機会を設定して、家庭と連携したメディアコントロールの取組を進める。また、中学校ブロックごとに情報共有を行い、取組を広げる。 ◇情報活用能力（情報モラルを含む）を育成する教育活動を行う。その際、児童生徒が課題意識をもてるような児童生徒主体の取組を進める。 ◇利用実態の周知及び家庭ルール作りの啓発を行い、家庭、地域と連携した取組の推進を図る。										

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実		
(2) つながり		～ 社会の中で広い視野を持ち、人や地域とつながり、 互いを認め合って生きていけるひとを育てる～		
ウ. 道徳性や規範意識の醸成				
取 組		④関係機関等との連携による学校教育活動の支援	担当課	次世代育成課
具体施策と実施状況	○学校や関係機関と連携しながら、あいさつ運動を51回、学校訪問を26回実施し、児童生徒の規範意識の向上、非行防止に取り組み、落ち着いて学ぶことができる教育環境の確保や生徒指導等の学校教育活動を支援した。			
	○見守り隊や地域の方が、通学班の集合場所や、横断歩道等での見守りや声かけ、また子どもたちと校門まで一緒に歩いてくるなど、地域の方の関わりも増えてきている。			
目標達成度				
	計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値
	学校訪問回数（あいさつ運動は含まない）	5回 (R2)	20回	26回
課題	◆あいさつはまずまずできているが、元気よく進んであいさつする子は少ない。児童会や生徒会でのあいさつ運動への取組についても進めていく必要がある。			
今後の方向性	◇児童会や生徒会、PTA、地域の青少年育成団体等のあいさつ運動等の取組を支援する。			
	◇引続き非行等の未然防止の観点から取組を進めるとともに、小学校から中学校への接続時等、新しい環境で子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、学校訪問による見守りを行うなど、状況に応じた切れ目のない支援を行っていく。			

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実																					
(3) 郷土愛		～ ふるさとを愛し、津山人としての誇りを持って生きていけるひとを育てる～																					
ア. 津山の歴史・伝統・文化などを大切に作る心の育成																							
取 組		②郷土愛の醸成（「つやま郷土学」の推進）	担当課 学校教育課																				
具体 施策 と 実施 状況	○つやま郷土学推進事業では、全小中学校において、学年ごとにねらいと具体的活動を記述した計画表を作成し、実践を進め、つやま郷土学実施2年目として、津山の良さを知る活動を十分行うことができた。また、昨年度に引き続き、地元出身の芸術家・彫無季氏に関する学習（1校）、大分県中津市・島根県津和野町の小学校と交流する三津（さんしん）同盟締結による学校間交流（鶴山小7月・12月、林田小1月実施）を実施した。また、地元芸術家武藤順九氏による墨絵授業を3校、横野和紙に関する授業を3校、学校と津山洋学資料館をタブレットでつないだオンライン授業を4校で取り組んだ。 今年度新たな取組として、歴史・文化・地域等の問題を解くことを通して、小中学生の一層の郷土愛の醸成を図る、小中学生版「つやま検定」トライアルを2月限定で実施し、2,000を超える回答を得た。																						
	<table><thead><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="3">県調査「自分が住んでいる地域が好きである」の項目で最上位の回答をした児童生徒の割合</td><td>【小5】65.9%</td><td>【小5】72%</td><td>【小5】65.6%</td></tr><tr><td>【中1】52.5%</td><td>【中1】57%</td><td>【中1】51.0%</td></tr><tr><td>【中2】46.7%</td><td>【中2】51%</td><td>【中2】47.4%</td></tr><tr><td rowspan="2">全国調査「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の項目で肯定的な回答をした児童生徒の割合</td><td>【小6】44.7%</td><td>【小6】51%</td><td>【小6】78.4%</td></tr><tr><td>【中3】42.7%</td><td>【中3】47%</td><td>【中3】56.7%</td></tr></tbody></table> ※ R 5 より調査項目が変更となった。 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	県調査「自分が住んでいる地域が好きである」の項目で最上位の回答をした児童生徒の割合	【小5】65.9%	【小5】72%	【小5】65.6%	【中1】52.5%	【中1】57%	【中1】51.0%	【中2】46.7%	【中2】51%	【中2】47.4%	全国調査「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の項目で肯定的な回答をした児童生徒の割合	【小6】44.7%	【小6】51%	【小6】78.4%	【中3】42.7%	【中3】47%
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値																				
県調査「自分が住んでいる地域が好きである」の項目で最上位の回答をした児童生徒の割合	【小5】65.9%	【小5】72%	【小5】65.6%																				
	【中1】52.5%	【中1】57%	【中1】51.0%																				
	【中2】46.7%	【中2】51%	【中2】47.4%																				
全国調査「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の項目で肯定的な回答をした児童生徒の割合	【小6】44.7%	【小6】51%	【小6】78.4%																				
	【中3】42.7%	【中3】47%	【中3】56.7%																				
目標 達成 度																							
課題	◆県調査「自分が住んでいる地域が好きである」の項目で肯定的評価としては高く、9割前後の回答（※）があるが、最上位の回答をした児童生徒の割合が目標値を達成していない。理由として、地域の大人との関わりが少なくなっていることが推察される。 ※肯定的評価（小5）91.5%（中1）87.9%（中2）87.8%																						
今後 の 方向 性	◇三津同盟、横野和紙、墨絵、彫無季氏に関する授業、洋学資料館と学校とのオンライン授業の年度内の実施校拡大を図る。 ◇夏休み以降、小中学生版つやま検定を本格実施する。 ◇7月以降、郷土の歴史や文化、産業などについて深く知るための企業見学、美作大学や津山工業高等専門学校等と連携し、津山産食材を使用した調理実習や、科学について親子で楽しむ「つやま子ども未来塾」を実施する。																						

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実									
(3) 郷土愛		～ ふるさとを愛し、津山人としての誇りを持って生きていけるひとを育てる～									
ア. 津山の歴史・伝統・文化などを大切にする心の育成											
取 組		③子ども観光ガイド育成塾の充実	担当課 学校教育課								
具体 施策と 実施状 況	○つやま子ども観光ガイド育成塾 実施回数：4回 つやま子ども観光ガイド育成塾は、5年目となる。今年度のテーマは「津山の牛肉 食文化のひみつ」として、小中学生が、津山と牛肉の歴史、つやま和牛生産者の話を聞き、牛そずり鍋を実際につけて食べることを通して、ふるさと津山を再認識、再発見した。ガイド体験の本番では、イラストや写真入りの自作パネルや、オリジナルクイズの出題、そずり鍋を作った食りぽなど、参加者それぞれの工夫により紹介された。参加者アンケート結果は、4回トータルで「楽しかったか」、「津山がより好きになったか」の肯定的回答がいずれも100%。郷土愛を深める貴重な体験となった。										
	目標 達成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>参加者アンケート「津山のことがもっと好きになりましたか」の項目で肯定的回答をした児童生徒の割合</td><td>100%</td><td>100%</td><td>100%</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	参加者アンケート「津山のことがもっと好きになりましたか」の項目で肯定的回答をした児童生徒の割合	100%	100%
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値								
参加者アンケート「津山のことがもっと好きになりましたか」の項目で肯定的回答をした児童生徒の割合	100%	100%	100%								
課題	◆津山らしさが感じられるテーマにしたり、体験活動等を取り入れたりすることによって、郷土の良さを一層感じられるようにする。										
今後の 方向性	◇令和6年度は「津山の祭り」をテーマとし、郷土を素材にした校外学習をすることを通して、自ら考え、自分の言葉で説明するなどの学びを深めるとともに、専門的な社会体験による郷土理解を図り、ふるさと津山に誇りと愛着をもてる子どもの育成を図る。 【参考】R2：津山城 R3：城東地区 R4：津山郷土博物館・自然のふしぎ館 R5：牛肉 R6：祭り										

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ	教育活動の推進・充実
(3) 郷土愛	～ ふるさとを愛し、津山人としての誇りを持って生きていけるひとを育てる～

Ⅰ. ふるさと津山に誇りと愛着をもち、地域や社会に貢献できる人の育成

取 組	①つやま夢サポート(夢サポ)	担当課	学校教育課								
具体施策と実施状況	○「中学生対象企業見学バスツアー」では、アールビーシーコンサルタント・小川香料・デジタル総合印刷・ソフィアの4社を見学し、様々な体験活動を行った。参加者数はのべ40人。満足度アンケート肯定的回答「夢や目標の参考になった」「津山がより好きになった」がいずれも100%。 ○中学生と地域の大人が語り合い、自分の夢や目標を広げる「中学生こみゅ」を昨年度から1校増の中学校2校で実施した。満足度アンケート肯定的回答は、「これからの生き方の参考になった」100%、「将来への不安が少しでもなくなった」97%、「これからの中学校生活をよりよくすごしたい」98%であった。										
目標達成度	<table border="1"> <thead> <tr> <th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全国調査「将来の夢や目標を持っている」の項目で肯定的な回答をした児童生徒の割合</td><td>【小6】81.2% 【中3】74.4%</td><td>【小6】87% 【中3】78%</td><td>【小6】82.0% 【中3】78.3%</td></tr> </tbody> </table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	全国調査「将来の夢や目標を持っている」の項目で肯定的な回答をした児童生徒の割合	【小6】81.2% 【中3】74.4%	【小6】87% 【中3】78%	【小6】82.0% 【中3】78.3%
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値								
全国調査「将来の夢や目標を持っている」の項目で肯定的な回答をした児童生徒の割合	【小6】81.2% 【中3】74.4%	【小6】87% 【中3】78%	【小6】82.0% 【中3】78.3%								
課題	◆全国調査「将来の夢や目標を持っている」の項目で肯定的な回答をした児童生徒の割合は、数値を伸ばし、国・県と比較して高いが、目標値を達成していないか同程度である。理由として、地域の大人との関わりが少なくなっていることが推察される。 ◆各校への働きかけが弱く、中学生こみゅの実施校が2校にとどまっている。										
今後の方向性	◇今年度新たに、地域で活躍する大人に焦点を当て、人生や仕事などの話を聞いたり関連した体験活動を通して、将来の夢や目標を広げる「地域の大人に学ぶ夢育講座」を実施する。 ◇中学生にとって多様な取組となるよう、夏休み中に「中学生企業見学バスツアー」と「地域の大人に学ぶ夢育講座」を組み合わせ実施する。 ◇企業人・社会人交流を促進し、身近な地域・地元の先輩に学ぶ「中学生こみゅ」の実施校を全8校に拡大を図る。										

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅰ		教育活動の推進・充実									
(3) 郷土愛		～ ふるさとを愛し、津山人としての誇りを持って生きていけるひとを育てる～									
イ. ふるさと津山に誇りと愛着をもち、地域や社会に貢献できる人の育成											
取 組		②つやま元気大賞表彰の推進	担当課 学校教育課								
具体 施策と 実施 状況	○つやま郷土学推進事業におけるつやま元気大賞では、応募数は33（個人3、団体30）であり、年々応募数を伸ばすことができている（R2：15、R3：20、R4：34）。 選考委員会による選考の結果、多様な取組の中から、大賞は個人の部：中谷 肇氏（通学見守り）、団体の部：広野小学校6年（戦没者慰霊祭）、南小学校PTA（沖縄県宮古島市小学校との姉妹校交流）、津山っ子を守り育てる市民の会加茂ブロック（親子ふれあい活動）。 おかやま教育の日に合わせて表彰式を行った。 家族等で郷土愛の醸成につなげられるよう、津山洋学資料館と津山郷土博物館の協力により、推薦された個人・団体の方々にそれぞれのペアチケットを配付している。										
目標 達成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>つやま元気大賞応募数</td><td>20 (R3)</td><td>28</td><td>33</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	つやま元気大賞応募数	20 (R3)	28	33
	計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値							
つやま元気大賞応募数	20 (R3)	28	33								
課題	◆自己肯定感の向上と郷土愛の醸成を図るため、さらなる応募数の増加を図る。										
今後 の方向性	◇津山市PTA連合会や各校の学校運営協議会（コミュニティ・スクール）と連携し、年度当初より応募の周知を図るとともに、津山郷土博物館と津山洋学資料館のペアチケットに加えて、津山市PTA連合会から記念品を贈る予定である。										

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅱ		教育環境の改善・充実									
教育活動を支える環境づくり		～ 自立し 心豊かにたくましく 将来へ「つなぐ力」を育むための基盤整備～									
ア. 安全・安心な学校づくり											
取 組		①幼稚園・小中学校施設整備	担当課 こども保育課 教育総務課								
具体 施策と 実施状 況	(こども保育課) ○施設の不備等について早期発見に努め、必要な修繕等を実施した。 (教育総務課) ○河辺小学校校舎大規模改修、加茂小学校と加茂中学校で空調改修、中道中学校で下水道 接続工事を実施し、快適な学校生活を送れるようにした。										
目標 達成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>学校施設（校舎・屋内運動場・プールなど）及び設備（トイレ・消防・放送・水道・排水設備など）の改修件数</td><td>3件</td><td>4件</td><td>4件</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	学校施設（校舎・屋内運動場・プールなど）及び設備（トイレ・消防・放送・水道・排水設備など）の改修件数	3件	4件	4件
	計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値							
学校施設（校舎・屋内運動場・プールなど）及び設備（トイレ・消防・放送・水道・排水設備など）の改修件数	3件	4件	4件								
課題	(こども保育課) ◆幼稚園の施設の不備等については、管理者による日々の管理及び点検を継続していく必要がある。 (教育総務課) ◆小中学校については、児童・生徒の安全安心の確保、日々の点検による早期発見、早期修繕、教育環境の改善・充実を行い、誰でも使いやすい快適な施設となるよう継続して管理・整備する必要がある。また、老朽化が進む学校施設は依然として多く存在し、改修が必要と認識している。										
今後 の方向 性	(こども保育課) ◇幼稚園については、長寿命化個別計画により計画的に実施する。 (教育総務課) ◇小中学校については、津山市学校施設更新整備方針や「津山市小中学校の将来構想検討委員会」からの提言、学校、保護者からの要望を踏まえ、引き続き学校施設や設備の改修を計画的に実施する。 ◇子どもたちの学習環境を確保するため、計画的に各学校の特別教室へのエアコン設置設計・工事を、順次実施する。										

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅱ		教育環境の改善・充実	
教育活動を支える環境づくり		～ 自立し 心豊かにたくましく 将来へ「つなぐ力」を育むための基盤整備～	
ア. 安全・安心な学校づくり			
取 組		②安全安心対策	担当課 こども保育課 教育総務課
具体 施策と 実施状 況	(こども保育課) ○幼稚園では、管理者による日々の管理及び点検を実施した。さらに専門業者による遊具点検を年1回実施した。(毎年1園ずつ実施) (教育総務課) ○施設点検の結果に基づき、勝北中学校校舎庇防水改修、中道中学校倉庫ほか屋根塗装改修、鶴山中学校プール内部改修を実施した。		
目標 達成度			
	計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値 R5現況値
	建築基準法第12条に定められた施設点検実施学校数	12校	12校 12校
課題	(こども保育課) ◆危険箇所等を早期発見するため、管理者による日々の管理及び点検を継続して実施していく必要がある。 (教育総務課) ◆建築基準法第12条等により、法定点検を実施し、危険箇所等の早期発見、計画的な改修に努めているが、それ以外で確認が困難である地中配管、又は樹木管理については、修理が必要になってからの対応になっている。今後は学校教育に支障がないように計画的な修繕、改修、樹木の手入れ等を行っていくことが課題である。		
今後 の方向 性	(こども保育課) ◇幼稚園の施設や遊具の修繕等については、管理者と連携し、必要に応じて実施する。 ◇園児の性被害を未然に防ぐため、パーティション等の設備における性被害防止対策を講じ、施設の安全対策を図る。 (教育総務課) ◇引き続き、小中学校全校について建築基準法第12条に定められた施設点検を計画的に実施することにより、学校施設における危険箇所等の早期発見に努めるとともに、安全安心な学校生活に必要な修繕等を行う。		

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅱ		教育環境の改善・充実								
教育活動を支える環境づくり		～ 自立し 心豊かにたくましく 将来へ「つなぐ力」を育むための基盤整備～								
ア. 安全・安心な学校づくり										
取 組		③新型コロナウイルス感染症対策や各種環境衛生対策	担当課 こども保育課 保健給食課							
具体施策と実施状況	(こども保育課) ○各種感染症対策のため、各園において保健衛生用品を購入し、園児等が安全・安心に過ごすための環境を確保した。 ○園児が健康で安全な生活を送ることができるよう、手洗いやうがい等の基本となる取り組みを継続して実施した。 (保健給食課) ○産業医配置校(3中学校)では、職場の安全衛生管理について専門的知見からの助言を得ることができた。(職場巡視、衛生委員会出席等) ○新型コロナウイルス感染症が5類移行となったが、感染症対策は継続するものとし、学校ニーズを把握したうえで感染症対策物品を購入・配布した。									
	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>専門家からの指導・助言回数の増加(平均値) (幼・小・中)</td><td>13.6回</td><td>16回</td><td>21.5回</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	専門家からの指導・助言回数の増加(平均値) (幼・小・中)	13.6回	16回
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値							
専門家からの指導・助言回数の増加(平均値) (幼・小・中)	13.6回	16回	21.5回							
課題	(こども保育課) ◆5類移行後の新型コロナウイルス感染症対策は、今後の感染状況等に注視しながら、園に対する感染症対策を継続して行う必要がある。 (保健給食課) ◆R5年度は、新型コロナウイルス感染症対策が5類移行となり、学校生活がコロナ禍以前に戻りつつあるなか、コロナウイルスやインフルエンザの罹患による学級閉鎖等が多発した。このことをふまえ、引き続き、学校医・学校薬剤師・産業医の助言協力を求めながら、学校生活における児童生徒の安全を確保するための継続した取組が必要である。									
今後の方向性	(こども保育課) ◇園児の安全を確保するため、今後も各種感染症対策や各衛生検査を継続して実施する。 (保健給食課) ◇飲料水やプール水の水質検査、ダニアレルゲン検査を継続実施する。 ◇児童生徒の安全を確保するため、学校医・学校薬剤師・産業医から専門的助言を得ながら、感染症対策、環境衛生対策を継続して実施する。									

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅱ		教育環境の改善・充実									
教育活動を支える環境づくり		～ 自立し 心豊かにたくましく 将来へ「つなぐ力」を育むための基盤整備～									
ア. 安全・安心な学校づくり											
取 組		④安全・安心に配慮した給食提供と食育センター施設・設備の整備	担当課 保健給食課								
具体施策と実施状況	○戸島学校食育センターにおいて、優先順位をつけ、計画的に施設や設備機器の点検や整備・改修を実施した。 ※令和5年度実施状況 ・食器供給装置修繕及び給食食器の一部購入、その他設備の改修 ・施設（調理室床・壁等）の修繕、空調の一部取替										
目標達成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>戸島学校食育センターの施設設備更新計画の進捗割合</td><td>—</td><td>46.8%</td><td>35.1%</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	戸島学校食育センターの施設設備更新計画の進捗割合	—	46.8%	35.1%
	計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値							
戸島学校食育センターの施設設備更新計画の進捗割合	—	46.8%	35.1%								
課題	◆施設設備を改修する時期は夏休み等長期休暇に限られていることから、計画的な実施や、突発的かつ大きな修繕につながらないための点検を定期的・継続的に実施する必要がある。										
今後の方向性	◇引き続き、戸島学校食育センターの施設設備の整備改修を計画的に進める。 ◇草加部学校食育センターも稼働から10年を超えることから、施設設備の更新状況や劣化状態等を把握していく。										

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅱ		教育環境の改善・充実													
教育活動を支える環境づくり		～ 自立し 心豊かにたくましく 将来へ「つなぐ力」を育むための基盤整備～													
イ. 良好な教育環境の維持・向上															
取 組		①幼稚園ICT環境整備	担当課 こども保育課												
具体施策と実施状況	○令和5年度当初から保育支援システムを導入し活用した。 ○幼稚園教育研究会の部会で機器を活用した研修や情報交換を行い両園で保育への活用を学んだ。また、保護者への連絡等、業務の効率化も模索している。														
目標達成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>ICT環境整備</td><td>—</td><td>タブレット端末整備</td><td>タブレット端末整備済</td></tr><tr><td>ICTを活用した情報発信回数 (回／園)</td><td>—</td><td>12回</td><td>8回</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	ICT環境整備	—	タブレット端末整備	タブレット端末整備済	ICTを活用した情報発信回数 (回／園)	—	12回	8回
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値												
ICT環境整備	—	タブレット端末整備	タブレット端末整備済												
ICTを活用した情報発信回数 (回／園)	—	12回	8回												
課題	◆各園の職員が、ICT機器の操作方法や保育支援システムの利用について、早急な理解を推進する必要がある。														
今後の方向性	◇保育支援システムを使用して家庭への情報発信や連絡事項の配信に向けて積極的に取り組んでいく。 ◇ICT機器を活用した研修や情報発信について、引き続き先進園等の事例を参考に有効な活用方法を探り、実践につなげる。														

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅱ		教育環境の改善・充実									
教育活動を支える環境づくり		～ 自立し 心豊かにたくましく 将来へ「つなぐ力」を育むための基盤整備～									
イ. 良好な教育環境の維持・向上											
取 組		②学校ICT環境整備	担当課 教育総務課								
具体 施策と 実施 状況	○生徒数の多い中学校2校（津山東中学校、北陵中学校）において、ローカルブレイクアウトの回線を増設し2回線とするほか、新たに小学校1校、中学校1校（中道中学校、河辺小学校）の通信環境を、ローカルブレイクアウトに変更した。また、小学校3校、中学校2校（新野小学校、勝加茂小学校、加茂小学校、勝北中学校、加茂中学校）においては、通信速度を高速化させるライセンス（50→200Mbps）を適用し、通信環境を改善した。 ○校務系ネットワークに二要素認証を導入し、パソコンログイン時のセキュリティを強化した。 ○ICT支援員による、サポートを継続して実施した。										
	【参考】 ローカルブレイクアウト…市役所を経由せず、学校からインターネットに接続する方式のこと										
目標 達成 度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>「授業でコンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」の質問項目で「ほぼ毎日」と回答した割合（全国学習状況調査）</td><td>【小6】17.9% 【中3】10.1%</td><td>【小6】50% 【中3】50%</td><td>【小6】34.4% 【中3】19.6%</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	「授業でコンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」の質問項目で「ほぼ毎日」と回答した割合（全国学習状況調査）	【小6】17.9% 【中3】10.1%	【小6】50% 【中3】50%	【小6】34.4% 【中3】19.6%
	計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値							
「授業でコンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」の質問項目で「ほぼ毎日」と回答した割合（全国学習状況調査）	【小6】17.9% 【中3】10.1%	【小6】50% 【中3】50%	【小6】34.4% 【中3】19.6%								
課題	◆ローカルブレイクアウトに伴う機器導入により通信環境は向上したが、同時接続時の状況では通信速度が不安定になることがある。 ◆通信環境の検証に対する学校等の協力体制の構築が必要。また、情報セキュリティについての認識が統一されていない。 ◆ICT環境の整備を進めているが、授業における学校での使用頻度が少ない。（特に中学校）										
	◇各校の通信環境を整備し、継続してローカルブレイクアウト等により、同時接続環境下での通信速度向上を目指す。 ◇ハード（パソコン、ネットワーク等）、ソフト（人的セキュリティ等）ともにセキュリティ対策の強化を進める。 ◇ICT支援員のサポートを継続するとともに、学校でのICTを活用した授業実施をより一層、取り組む。										
今後の方向性											

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅱ		教育環境の改善・充実									
教育活動を支える環境づくり		～ 自立し 心豊かにたくましく 将来へ「つなぐ力」を育むための基盤整備～									
イ. 良好な教育環境の維持・向上											
取 組		③小中学校の適正規模・適正配置	担当課 学校教育課 教育総務課								
具体 施策と 実施 状況	(学校教育課・教育総務課) ○令和5年3月26日に策定した「今後の津山市立小中学校の体制整備に関する基本方針」に基づき津山市内全中学校区においてPTAを主体とした説明会を7回開催した。体制整備を検討する要件となる過小規模校(複式学級)または将来推計からなることが想定される小学校においてPTAからの要望により3校において説明会を開催した。										
目標 達成 度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>津山市立学校の適正な規模や配置等に関する基本方針の策定</td><td>基本方針検討中</td><td>中学校区での説明会の開催</td><td>中学校区での説明会を実施</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	津山市立学校の適正な規模や配置等に関する基本方針の策定	基本方針検討中	中学校区での説明会の開催	中学校区での説明会を実施
	計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値							
津山市立学校の適正な規模や配置等に関する基本方針の策定	基本方針検討中	中学校区での説明会の開催	中学校区での説明会を実施								
課題	(学校教育課・教育総務課) ◆体制整備の方策の決定に当たっては、地域関係者等の理解と協力を得て地域主導で進めていくことが必要であるが、説明会実施後、具体的に協議を進める校区代表の組織立ち上げが進んでいない。										
今後の 方向性	(学校教育課・教育総務課) ◇体制整備を検討する要件となる過小規模校(複式学級)または将来推計からなることが想定される小学校において今後も丁寧に説明を行うと共に、地域主導で進めていくことが肝心であるため地域が校区代表の組織を立ち上げ、検討を進めていくよう、説明・資料提供等サポートを行っていく。 ◇今後の地域協議の進め方として、各小学校を単位とした小学校区代表による体制整備の方向性決定。決定方針によっては、周辺小学校と検討協議を行い、最終決定し教育委員会へ意見書等を提出。教育委員会は意見書に基づき準備委員会等を設立し、検討していく。										

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅱ		教育環境の改善・充実									
教育活動を支える環境づくり		～ 自立し 心豊かにたくましく 将来へ「つなぐ力」を育むための基盤整備～									
イ. 良好な教育環境の維持・向上											
取 組		④教職員の働き方改革	担当課 学校教育課								
具体 施策と 実施 状況	○学校運営改善アドバイザーによる学校訪問を計画的に行い、業務改善に係る学校課題や改善に資する好事例の情報を収集し、校園長会議等でのフィードバックを行った。 ○出退勤管理システム（令和5年度導入）を活用した迅速な勤務状況把握により、各校へ業務改善を促すことができた。令和5年度の教職員の時間外在校等時間は、月平均小学校37.6時間（前年度比－1.9）、中学校48.9時間（前年度比－2.5）と減少した。 ○部活動の地域移行等については、推進会議より、主に「今後の学校部活動の在り方について」「地域連携・地域移行の方策」の2点について協議を踏まえた提言書が教育委員会へ提出された。										
目標 達成 度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>教職員の1ヶ月あたり時間外在校等時間</td><td>【小】39.09h 【中】49.14h (R2)</td><td>【小】36h以内 【中】46h以内</td><td>【小】37.6h 【中】48.9h</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	教職員の1ヶ月あたり時間外在校等時間	【小】39.09h 【中】49.14h (R2)	【小】36h以内 【中】46h以内	【小】37.6h 【中】48.9h
	計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値							
教職員の1ヶ月あたり時間外在校等時間	【小】39.09h 【中】49.14h (R2)	【小】36h以内 【中】46h以内	【小】37.6h 【中】48.9h								
課題	◆教職員の時間外在校等時間の状況は改善しつつあるが、中学校の業務改善が課題である。 ◆学校の機能強化を図る上で、事務職員の学校運営参画は必須となる。 ◆提言書を踏まえ、「今後の学校部活動の在り方について」「地域連携・地域移行の方策」について基本方針をまとめ、具体的な取組を推進する必要がある。										
今後 の 方向 性	◇学校運営改善アドバイザーの計画的な学校訪問や事務職員研修の企画参画で、教職員の働き方改革の好事例を横展開し具体化する。 ◇引き続き、出退勤管理システムを活用した迅速な勤務状況把握により、各校へ業務改善を促す。 ◇部活動の地域移行等について、6月頃を目途に、基本方針を策定し、基本方針に基づきワーキンググループを設置し、具体的な取組を推進する。										

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅱ		教育環境の改善・充実									
教育活動を支える環境づくり		～ 自立し 心豊かにたくましく 将来へ「つなぐ力」を育むための基盤整備～									
イ. 良好な教育環境の維持・向上											
取 組		⑤学校給食費の公会計化及び学校事務の効率化	担当課 保健給食課								
具体施策と実施状況	○他自治体の先行事例に対し、給食未納の取扱い等情報収集を行った。 ○システム業者への見積依頼及びシステムのデモストレーションを実施した。 ○システム導入にあたって、本市が進める「地方公共団体の情報システムの標準化に向けた取組」の準備期間との重複が判明した。このことから、導入予定時期を延期することとなり、第5次総合計画後期実施計画の主要事業の変更手続きを行った。										
目標達成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>公会計化及び学校事務効率化事業の進捗割合</td><td>—</td><td>システム導入方法の検討</td><td>検討中</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	公会計化及び学校事務効率化事業の進捗割合	—	システム導入方法の検討	検討中
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値								
公会計化及び学校事務効率化事業の進捗割合	—	システム導入方法の検討	検討中								
課題	◆システム導入にあたって、本市が進める「地方公共団体の情報システムの標準化に向けた取組」の準備期間との重複が判明したため、導入時期の延期を決定したことから、総合計画に係る諸手続きや導入に向けたスケジュールの見直し、合わせて関係機関への協議・調整が必要である。										
今後の方向性	◇国の動向を見極めたうえで、関係部署等との協議、公会計化の導入時期等を修正する。 ◇他自治体の先行事例を参考とし、学校や市関係部局と協議調整をしながら管理システムの決定、業者選定に向けた取組を進める。										

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅱ	教育環境の改善・充実
教育活動を支える環境づくり	～ 自立し 心豊かにたくましく 将来へ「つなぐ力」を育むための基盤整備～

ウ. 総合的な連携体制の構築

取 組	①教育委員会活動の活性化	担当課	教育総務課								
具体施策と実施状況	○「津山市教育委員会」として教育行政全般についてまとめたホームページを作成・公表し積極的な情報発信を実施した。 ○教育委員の知見の向上と教育委員会における協議に資するため、教育委員による学校訪問（16校3施設）を実施するとともに、令和5年度から教育に関する行事・事例等を、定期的に委員へ通知することとし、情報を共有した。 ○本市の教育施策の方向性を市長部局と共有・協議・調整するため、「総合教育会議」（3回）に参加した。 ○PTAとの懇談会等を実施し、教育についての意見交換を実施した。										
目標達成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>他団体との交流回数 （意見交換、懇談会等）</td><td>9</td><td>11</td><td>7</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	他団体との交流回数 （意見交換、懇談会等）	9	11	7
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値								
他団体との交流回数 （意見交換、懇談会等）	9	11	7								
課題	◆ホームページへの情報アップに際して、よりわかりやすく、検索しやすい方策の検討が必要である。 ◆教育施策のアピールについて、SNS等の活用が検討できていない。 ◆「教育委員会通信」の内容が恒常化しつつある。										
今後の方向性	◇分かりやすいホームページでの情報発信に努めるとともに、SNSなどを活用した教育施策のアピール方策を検討する。 ◇引き続き、教育委員による学校訪問や懇談会等を継続・拡充していく。										

取組点検・評価シート

基本的方向性Ⅱ	教育環境の改善・充実
教育活動を支える環境づくり	～ 自立し 心豊かにたくましく 将来へ「つなぐ力」を育むための基盤整備～

ウ. 総合的な連携体制の構築

取 組	③親（保護者）学講座（こども家庭講座）の推進	担当課	学校教育課								
具体施策と実施状況	○つやまっ子家庭教育推進事業では、小中学校等の保護者を対象に、スマホ等のルールづくりや自己肯定感の醸成、非認知能力の育成など子育てについて学び、親同士のつながりを深める参加体験型学習を進めた。 子育てワークショップ研修・こども家庭講座（LINK講座） 実施回数：65回 参加人数：1,722人 子育てワークショップの満足度アンケートは、99.5%が肯定的回答。 ※別に入学説明会においてスマホ等の使い方や家庭学習等についてのワークショップを全校で実施した。										
目標達成度	<table><tr><th>計画中の指標</th><th>計画策定時の現況値</th><th>R5目標値</th><th>R5現況値</th></tr><tr><td>子育てワークショップ・親（保護者）学講座（こども家庭講座）の年間開催回数</td><td>58</td><td>64</td><td>65</td></tr></table>			計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値	子育てワークショップ・親（保護者）学講座（こども家庭講座）の年間開催回数	58	64	65
計画中の指標	計画策定時の現況値	R5目標値	R5現況値								
子育てワークショップ・親（保護者）学講座（こども家庭講座）の年間開催回数	58	64	65								
課題	◆子育てワークショップ・こども家庭講座の目標達成（年間実施回数）を継続して図る。										
今後の方向性	◇保護者同士の学びと交流を重視し、保護者のニーズに応え、孤立して思い悩むのではなく、気軽に話し合い、共感したり子育てのヒントをもらったりすることを通して、親子がともに育っていく家庭教育支援を目指す。 ◇子育てワークショップ・こども家庭講座の年間実施回数67回以上を目標とする。実施回数が増えるよう、4月以降の市PTA連合会の会議等で周知の徹底を図る。また、満足度アンケートを良好な現状を保てるように家庭教育支援チームの研修会等を充実させたい。 ※別に入学説明会においてスマホ等の使い方や家庭学習等についてのワークショップを全校で実施予定。										

Ⅳ 学識経験者（外部評価者）の総評

服部 康正（元小学校校長）

I はじめに

「令和5年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書」について、外部の第三者としての視点で検討評価させていただいた。津山市教育振興基本計画の第3期計画（令和4年度～令和7年度）が作成され、本年度はその2年目に当たる。津山市教育委員会が所掌する膨大な範囲の事業の執行状況について関係各課より重点的な取組19項目について丁寧な説明を受けた。特に確かな学力の向上のところで読解力に着目した取組、若手教員の育成の取組は注視していきたい。長期欠席・不登校への対策は今までにない迅速な取組や考えが具体化されてきている。今ある課題に真正面から取り組み、新たな時代の教育に鋭意努力されていることに、まだ課題はあるもののその内容がほぼ達成できていることを高く評価したい。

今後はこれからの時代に求められる「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実と全校に導入されていくコミュニティ・スクールで学校・家庭・地域が一体となってどう子どもを育てていくかその進捗状況を大いに期待したい。

II 令和5年度教育委員会の活動

教育委員会の活動は、定例の会議のほか臨時会議、学校訪問、研修会への参加など精力的に実施されている。

また、毎月発行している津山市教育委員会通信等の情報発信も取組を周知するということがよい。

III 各施策の点検・評価について

基本的方向性 I 教育活動の推進・充実

(1) 自立

A 主体的に学ぶ意欲の育成

○ 個別最適な学びと協働的な学びのための ICT 教育の推進

「教職員資質向上事業」により、ICT活用で先進的に実践する教員を推進員として委嘱し、県内外の視察を行い、好事例収集や市内への情報発信を行ったこと、また、学校において、児童生徒が日常的に端末を活用する授業改善に取り組んだことは評価できる。教員が「授業でほぼ毎日コンピュータ等のICT機器を使用する」と回答している割合は小学校で目標値を上回っている。中学校も頑張してほしい。

○ ICTを活用した先進的な授業展開のあり方の調査・研究

ICT活用推進員による端末を活用したSTAGE3の授業実践を市内全体に公開したり、東京学芸大学との連携により、生成AIを活用した授業の振り返りを中学校で実証したり、学校教育課と教育総務課が連携して取り組んでいるのが良い。

イ 確かな学力の向上

○ 幼児教育と小学校教育の滑らかな接続(保幼こ小の連携)

「津山市共通支援シート」を前年度8園から全園で実施したことを高く評価する。小学校と幼児教育の架け橋プログラムの推進をしていくためには、そこをつなぐコーディネーター的な役割

をする人が必要なのではと考えるが、いかがだろうか。

○ 読解力の向上

確かな学力の向上で読解力に着目し、精力的に取り組んだことを高く評価する。「よむ YOMU ワークシート」を全校で実施し、新聞記事を目にする機会を増やすことはとても重要なことと考える。また、司書教諭を中心とした学校司書、図書整理員と連携し校内読書週間や委員会活動を通して学校図書を利用した授業や調べ学習等の充実が図れたこともよい。そのこともあり、全国調査の国語科「読むこと」の正答率が小学校において-3.7 から+1.1 と大幅な上昇をとげた。ただ、中学校はまだ全国値を下回っている現実がある。頑張ってもらいたいものである。今日、各家庭で新聞を購読している家庭も以前よりかなり減っていきっている状況もあり、子どもたちが新聞を日常的に触れる機会が少なくなっている環境では読解力の問題もうなずける。そういう意味でも読解力の向上に取り組んだこの取組は価値がある。是非今後も推進して欲しい。

○ 若手教員の育成

「津山市若手教員育成チェックシート」を用いて、学校と学校経営アドバイザーと教育委員会が連携し若手教員の育成を継続的にサポートしている取組はとても意義がある。また、校内全職員で若手をどのように育てていくかという組織づくりが管理職としては重要である。その意味でも教育委員会が今まで何校かで試行してきた学年担任制をこの4月から市内小学校全校に導入したこの取組はとても期待がもてる。若手にとって安心感を生み、いつでもどこでも学べるというメリットを感じると思う。今後注視していきたい。

ウ 健やかな心と体の育成

○ 地域の食文化の継承と魅力ある献立づくり

学校給食に地場産物を使用する割合を増やすために、契約栽培農家と定期的に意見交換会を開催し、2学期から今津山市がPRしている津山産小麦をいち早く麺に使用している等細やかで迅速な取組を高く評価したい。学校給食残食の割合も年々少しずつ成果をあげている。地道に取り組んでいくしかないが、引き続き頑張ってもらいたい。

○ 長期欠席・不登校への対策

昨年もこの問題に対する教育委員会の取組を非常に高く評価した。なぜならこの問題は個々の児童生徒が抱えているものが一人一人違うので、解決は非常に難しいという中であって果敢に対策を考え、解決に立ち向かっているからである。今回さらに「新しい居場所(別室)」を4校増やし、合計6校設置し、常駐の教員と支援員を配置している。なかなかできないことを今年度さらに充実したことは本当にすばらしいと思う。さらには不登校児童生徒の多様な学びの機会である多様な学校の設置に向けてのスケジュール検討も教育委員会のアンテナの高さを感じるところである。そして小学校においてこの4月から市内全校に導入した学年担任制は複数の教員の目で見ることができ、きめ細やかな指導ができる環境づくりを行うことができるので、いろいろなことで効果が発揮されるような予感がして、大いに期待が持てると思っている。

他方、児童生徒にとっては、「学校が楽しい」と思えることが一番と考える。そのためには、学校現場に勤務する職員は「楽しい学校」を目指して取り組んでもらいたいと切に思う。

(2) つながり

ア 自他を尊重する心の育成

○ いじめ・暴力行為への対策

問題行動等調査における「暴力行為発生件数」(件)は小学校6件、中学校5件と非常に少なく、また、全国調査「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目で肯定的な回答をした児童生徒の割合が小学校、中学校とも約97%と良い結果である。ここ数年このような少ない件数で推移しているのは落ち着いた学級集団づくりに丁寧に取り組んでいる証である。しかし、いじめはひとつ間違えば命と直結するので件数は少なくても、学校のどの教職員もアンテナを高く上げ、敏感に迅速に対応する必要があることを今回も言っておきたい。

イ 人や地域との豊かな人間関係の構築

○ コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の推進

当初の計画通り令和4年度中学校3校、令和5年度15小中学校でコミュニティ・スクールが開始し、学校への理解が促進した、中学生による公民館講座開設、夏祭り参画等新たな取組が広がった、地域住民の意見が生かされ、地域学校協働活動との連動ができつつある等の成果が出てきている。しかし、本来学校運営協議会で協議する熟議の場が不十分であるという報告もある。今後一層充実してってもらいたい。

ウ 道徳性や規範意識の醸成

○ スマートフォン、インターネット対策の推進

SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)等、インターネットを介したいじめ未然防止に向け、小中学校教科充実事業による「Netモラルデジタル教材」や、「SNSノートおおさか」等の教材テキストを活用するなど、情報モラル教育の充実に取り組んでいる実態を知ることができた。

政治、スポーツ、文化、芸能等現代社会で誹謗中傷など起きているからこそ、情報モラル教育は重要である。また、家庭での利用ルール作りは大切である。そのために、今後も家庭、地域へ啓発を行っていただきたい。

(3) 郷土愛

ア 津山の歴史・伝統・文化などを大切にする心の育成

○ 郷土愛の醸成(「つやま(郷土学)」)の推進

つやま郷土学2年目に全小中学校で計画表を作成実施し、津山の良さを知る活動を十分行うことができたことは素晴らしい。また、新たな取組として、歴史・文化・地域等の問題を通して、小中学生の一層の郷土愛の醸成を図る小中学生版「つやま検定」トライアルを実施したところ2,000を超える回答が寄せられたのには驚いた。今後さらに地域の大人と密に関われる機会を増やすことが子どもたちにとって重要なことと考える。

基本的方向性Ⅱ 教育活動を支える環境作り

イ 良好な教育環境の維持・向上

○ 学校ICT環境整備

今後も ICT 活用頻度が益々増える中で、学校 ICT 環境整備は欠かせない。児童生徒数の多い中学校 2 校のローカルブレイクアウトの回線を増設したり、新たな小学校 1 校と中学校 1 校をローカルブレイクアウトに変更したりした。また、小学校 3 校と中学校 2 校の通信速度を高速化させるライセンスを適用することもしている。このように学校が求めている通信環境を年々改善していることを評価する。そして ICT 支援員によるサポートの継続もできている。そういう努力に応えるためにも学校現場は ICT を活用した授業を一層取り組んでほしい。特に中学校にはもう少し活用頻度を多くすることを願いたい。

IV おわりに

第 3 期津山市教育振興基本計画の 2 年目である今年度、初年度に取り組んだ上に地道に積み上げ、各種施策の実施で成果を上げていることに、心より感謝申し上げる。

昨年も記したことではあるが、この計画には教育基本理念に「自立し心豊かにたくましく『つなぐ力』を育む」と掲げてある。「自立」のためには、主体性の育成と知・徳・体のバランスのとれた育成が、「心豊かにたくましく」には、自他を尊重し豊かな人間関係の中で自己肯定感や道徳性を育成することが必要ですと記されている。そして、「つなぐ力」には、人とつながり、地域とつながり、世界とつながり、歴史や文化とつながる力などを育成し、郷土の発展に貢献できる津山人を育てることが重要であると記してある。何度読んでもすばらしい理念と思う。だからこそ各課の職員一人一人が今一度この理念をしっかりと認識し、各課が連携協力し、教育施策を着実に推進していくことを強く期待している。

昨年度までも事業を点検・評価した際に感じたことではあるが、今回も津山市教育委員会及び津山市の教職員が、真摯にしかも全力でその職務に取り組んでいることを改めて確認し、その取り組み方、姿勢に心から敬意を表したい。郷土津山に誇りをもち、未来をきり拓いていく子どもたちが力強く、生き生きと育っていくことを切に願っている。

福田 邦夫（津山市教育振興基本計画（第2期）検討委員会委員）

I 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

はじめに、「令和5年度教育事務管理執行状況点検・評価報告書（案）」を拝読し、関係各課から詳細な説明を受けました。公開されている資料から目標達成度を確認したところ、児童・生徒へ愛情のこもった教育を提供するために奮闘されている教育関係者の皆様の真摯な姿勢が強く伝わってきました。同時に、各学校で行われている多岐にわたる業務や教職員の方々が負う労働負荷、教職員不足や若手教職員のスキル不足といった課題が引き続き存在する点も感じられました。コロナ禍を乗り越え、教職員の皆様が直面する課題も変化していると思います。児童・生徒の健やかな成長のために、多岐にわたる学校現場の課題を確実に改善し、教職員の負担軽減や若手教職員のスキルアップを図ることが求められています。児童・生徒の健やかな成長と安心できる教育現場の更なる発展を願っています。

II 令和5年度教育委員会の活動状況について

令和5年度教育委員会の活動について、教育委員会の皆様には、重要な議題について慎重に協議していただいていることに感謝申し上げます。コロナ禍を乗り越えて、今まで以上に活発に活動されていること、また、重要な協議では的確な意見を出されていることが確認できました。

III 各施策の点検・評価について

【教育活動の推進・充実】

(1) 自立

ITツールの活用により、幅広い教育方法が実践されていきました。AIドリルによる情報も蓄積され、先生方の教育方法の参考材料となり、コロナ禍以前の活動も戻ってきていることで、児童・生徒と向き合いやすくなっている点が期待されます。昨今、情報漏洩による個人情報の流出が問題となった事例がありましたが、セキュリティを強化しても完璧なシステムはないという前提で情報を管理していく必要があります。子どもの個性に関する情報の扱いには細心の注意を払いながら、長所も短所も共有し、個々の成長を促していただきたいです。

(2) つながり

子どもの頃から、障害者や外国籍の方との交流を持つことが社会に出た時に役立つ場面があります。「多様性」という言葉が積極的に教育現場で使われ始めましたが、その意味を一人ひとりが考え、いじめなどの問題が改善されることを願う一方、礼儀作法や挨拶などの社会儀礼についてはその作法をしっかりと伝えていく必要があります。国際化やITツールの普及が進む中で、英語教育を通じて世界中の人とのつながりが進んでいきます。その中で日本人としての道徳をしっかりと学んでおく重要性もより増していることを感じます。

(3) 郷土愛

地域に誇りを持つことは、児童・生徒の自己肯定感の向上にも寄与するものと考えます。年齢を重ねるにしたがって、郷土愛について「最上位の回答」が減っていることは非常に悲しく、課題であると考えます。子どもたちに教育を行うと同時に、大人である我々がより郷土について関心

を持ち、歴史や文化に触れ、自分たちの町を愛することが必要ではないでしょうか。また、「夢育」について地域企業と協力して進められている点については生徒の満足度も高く、さらに積極的に進めてほしい点です。

Ⅳ おわりに

コロナ禍においては、教育活動を支える環境作りが大きな変化を迎え、ICT 導入が積極的に進められました。その恩恵を享受するためには教員や児童・生徒が ICT に対するスキルやリテラシーを身につけることが重要です。ただ、子どもたちがデジタルツールに触れる時間が多くなっており、児童・生徒の健康への不安も抱かれています。適度な運動や休息を取り、バランスの良い食事、ストレスや不安を解消することへの配慮も必要です。ICT の環境整備だけでなく、デジタルネイティブの児童・生徒が自分自身の健康や安全に関心を持ち、自己管理をしていく習慣を身につけ、一人ひとりの意識を変えていくことも重要だと感じます。

V 今後の教育委員会の対応の方向性
（教育委員会総評）

V 今後の教育委員会の対応の方向性（教育委員会総評）

この報告書は、令和4年度から実施している「第3期津山市教育振興基本計画」における重点取組の進捗状況の定期的な確認とともに、津山市教育委員会が策定した「令和5年度教育行政重点施策」の取組並びに達成状況についての点検とその結果を分析・評価するものです。

I 点検・評価の手法について

令和5年度の点検・評価は、以下の手法で行いました。

(1) 担当課による点検・評価

「第3期津山市教育振興基本計画」における重点取組及び目標と、津山市教育委員会が策定した「令和5年度教育行政重点施策」の取組並びに達成状況について、担当課にて項目別に点検・評価を実施しました。

(2) 外部評価員2名によるヒアリングの実施

外部評価員による点検・評価については、外部評価員に項目ごとの説明を行い、その後、質疑応答を行いました。そして、客観的な視点で各施策や重点目標の評価を、総評としてまとめていただきました。

(3) 指摘事項等を踏まえた点検・評価報告書の策定

2 点検・評価結果と対応の方向性について

外部評価員からは、総合的には、各項目とも概ね良好に施策が進められている旨の評価をいただきましたが、教育委員会の活動や幼児・学校教育にかかわる分野について、さまざまな意見・要望がありました。（詳細については、P70～P75「IV 学識経験者の総評」を参照）

津山市教育委員会では、この意見・要望並びにR5現況値が未測定であった取組に対して以下のような方向性をもって対応していきます。

III 各施策の点検・評価について

基本的方向性Ⅰ 教育活動の推進・充実

(1) 自立

ア 主体的に学ぶ意欲の育成

外部委員からの意見・要望	状況や今後の対応の方向性など
教員が「授業でほぼ毎日コンピュータ等のICT機器を使用する」と回答している割合が中学校において低い数値となっている。	中学校の課題の背景を校長ヒアリング等で把握し、市独自で組織しているICT活用推進員が作成した津山市ICTリテラシー学年別表を活用し、中学校でのICT機器使用率の向上に取り組んでいきます。

ア 主体的に学ぶ意欲の育成

外部委員からの意見・要望	状況や今後の対応の方向性など
子どもの個性に関する情報の扱いには細心の注意を払いながら、長所も短所も共有し、個々の成長を促していただきたい。	定期的な研修も開催し、情報セキュリティポリシーを遵守し、ICTの活用により可能となった個別最適な学びと協働的な学びについて研究を進めるとともに実証を行い、事例報告会等による横展開を図ります。

イ 確かな学力の向上

外部委員からの意見・要望	状況や今後の対応の方向性など
小学校と幼児教育の架け橋プログラムの推進をしていくためには、コーディネーター的な役割をする人が必要なのは。	架け橋プログラムの推進のため、現在、学校や園では、保・幼・小連携担当者を配置しているところです。今後も担当者会を継続的に実施し、相互理解を深めながら、コーディネーター的な役割も充実できるように取り組んでいきます。
全国調査の国語科「読むこと」の正答率が中学校はまだ全国値を下回っている	担当者回答で特に中学校の課題を明確にし、「よむYOMU ワークシート」等を効果的に活用することにより、文章を論理的・構造的に読む機会を増やすことで読解力の向上に取り組んでいきます。
若手教員の育成において4月から市内小学校全校に導入した学年担任制の取組みに期待しているので、今後も注視していきたい。	学年担任制の導入により、若手教員とベテラン教員が補完的に学級運営を行える環境が整い、若手教員にとって日常的な研修(OJT)になっています。この取組を継続して実施し、若手教員の育成に取り組んでいきます。
取組⑥英語力の向上 R5 現況値未測定	全国調査に該当の質問項目が無いため、同様の質問項目による市独自の調査を実施していきます。
取組⑧教職員の指導力向上 R5 現況値未測定	全国調査に該当の質問項目が無いため、同様の質問項目による市独自の調査を実施していきます。

ウ 健やかな心と体の育成

外部委員からの意見・要望	状況や今後の対応の方向性など
学校給食残食の割合も年々少しずつ成果をあげている。地道に取り組んでいくしかないが、引き続き頑張ってもらいたい。	残食減少へ向けて、喫食時間の確保につながる取組の実施や児童生徒の適正量を把握し、献立の工夫や啓発活動を継続するとともに、好事例となる取組については、学校間で情報共有し各学校の実情に合わせた取組につながるよう進めていきます。

ウ 健やかな心と体の育成

児童生徒にとっては、「学校が楽しい」と思えることが一番と考える。そのためには、学校現場に勤務する職員は「楽しい学校」を目指して取り組んでもらいたいと切に思う。	学年担任制の導入により、児童生徒へのきめ細やかな指導ができる体制を整え、今後はより一層、一人ひとりに寄り添い多様な学びを実現できるよう取り組んでいきます。また、生徒会活動など児童生徒の主体的な活動を大切にしていきます。
---	---

(2) つながり

ア 自他を尊重する心の育成

外部委員からの意見・要望	状況や今後の対応の方向性など
いじめはひとつ間違えば命と直結するので件数は少なくても、学校のどの教職員もアンテナを高く上げ、敏感に迅速に対応する必要がある	「学校いじめ問題対策基本方針」に基づいて、組織的に未然防止等の対処できるよう学校単位で取組を強化します。また、学校の報告等を踏まえて、タイムリーな注意喚起・対応に努めます。

イ 人や地域との豊かな人間関係の構築

外部委員からの意見・要望	状況や今後の対応の方向性など
学校運営協議会（コミュニティスクール）で協議する場が不十分であるという報告もある。今後一層充実していったらいい。	小中学校と学校運営協議会が双方向に情報を共有し、協議し合う関係性構築に向けて学校と学校運営協議会、教育委員会が連携し、企画運営、意見交流の場を作り出していきます。

ウ 道徳性や規範意識の醸成

外部委員からの意見・要望	状況や今後の対応の方向性など
情報モラル教育は重要であるため、家庭での利用ルール作りへの啓発を家庭、地域へ行っていただきたい。	家庭、地域が連携して児童生徒の情報モラル教育や家庭でのルール作り啓発が行えるよう情報を積極的に発信していくとともに、道徳等の学習において児童生徒に課題意識を持ってもらうような取組を行っていきます。
日本人としての道徳をしっかりと学んでおく重要性もより増していることを感じます。	道徳の時間の現状を把握し、引き続き、道徳教育や情報モラル教育の充実を図り、児童生徒が自ら考え判断し、より良く生きるための資質や能力の育成に取り組んでいきます。
取組②規範意識の醸成・向上 R 5 現況値未測定	県調査に該当の質問項目が無いいため、同様の質問項目による市独自の調査を実施していきます。
取組③道徳心の育成 R 5 現況値未測定	全国調査に該当の質問項目が無いいため、同様の質問項目による市独自の調査を実施していきます。

(3) 郷土愛

ア 津山の歴史・伝統・文化などを大切に作る心の育成

外部委員からの意見・要望	状況や今後の対応の方向性など
年齢を重ねるにしたがって、郷土愛について「最上位の回答」が減っていることは非常に悲しく、課題であると考えます。	ICTを活用した他都市との交流、小中学生版つやま検定の本格実施や郷土の歴史・文化・産業を学ぶ「つやま子ども未来塾」を義務教育段階で系統的に実施し、郷土愛の醸成に取り組んでいきます。

イ ふるさと津山に誇りと愛着を持ち、地域や社会に貢献できる人の育成

外部委員からの意見・要望	状況や今後の対応の方向性など
今後さらに地域の大人と密に関わる機会を増やすことが子どもたちにとって重要なことと考える。	地域で活躍する大人に焦点を当て、人生や仕事などの話を聞いたり体験活動を通して学ぶ「地域の大人に学ぶ夢育講座」の実施や、企業人、社会人交流を促進するとともに、身近な先輩に学ぶ「中学生こみゅ」の実施校拡大、「中学生企業見学バスツアー」の実施等、地域の大人と関わる機会の創出を引き続き積極的に行っていきます。
「夢育」について地域企業と協力して進められている点については生徒の満足度も高く、さらに積極的に進めてほしい点です。	

津山市教育委員会では、津山市の教育が目指す人間像として「自立」、「つながり」、「郷土愛」の3つを掲げた、「津山市教育振興基本計画（第3期）」を令和4年3月に策定しました。

また、『ふるさとを愛し 心豊かに たくましく 「つなぐ力」を育む』という教育基本理念の実現を目指して、毎年度「教育行政重点施策」を定め、教育施策に取り組んでいます。

今回の「点検・評価の結果」及び「学識経験者の総評」を、今後の施策立案や事業実施に活かし、教育環境の変化や市民ニーズ等へ適切に対応し、継続性のある津山市の教育の充実・発展のために、使命感と責任感をもって本計画とその施策を確実に実行・推進していきます。

VI 資 料

令和5年度 津山市教育行政重点施策の体系

津山市第5次総合計画（平成28年度～令和7年度）

【子育て環境の充実と人と文化を育むまちづくり】

- ◇子どもが健やかに育つために ➡ 幼児教育・保育の充実
- ◇次代を担う子どものために ➡ 義務教育の充実、教育環境の充実、家庭・地域の教育力の充実、青少年の健全育成
- ◇心も体も元気であるために ➡ 生涯学習の推進、スポーツ活動の充実、芸術・文化活動の充実、国際交流・地域間交流の推進
- ◇歴史・文化を守り伝えるために ➡ 歴史文化の継承と文化財の保存・活用

津山市教育大綱

【目指す人間像】

自立

自立して、自己の将来を切り拓き、たくましく生きていけるひと

つながり

広い視野で人や地域とつながり、互いを認め合って生きていけるひと

郷土愛

ふるさとを愛し、津山人としての誇りを持って生きていけるひと

第3期 津山市教育振興基本計画（令和4年度～令和7年度）

教育基本理念

自立し 心豊かにたくましく「つなぐ力」を育む

（1）教育活動の推進・充実

自立

- ア 主体的に学ぶ意欲の育成
- イ 確かな学力の向上
- ウ 健やかな心と体の育成

つながり

- ア 自他を尊重する心の育成
- イ 人や地域との豊かな人間関係の構築
- ウ 道徳性や規範意識の醸成

郷土愛

- ア 津山の歴史・伝統・文化などを学び大切にする心の育成
- イ ふるさと津山に誇りと愛着をもち、地域や社会に貢献できる人の育成

（2）教育環境の改善・充実

【教育活動を支える環境づくり】

- ア 安全・安心な学校づくり
- イ 良好な教育環境の維持・向上
- ウ 総合的な連携体制の構築

◇◇ 令和5年度重点施策の方向性 ◇◇

- ☆ 落ち着いた学習環境づくり
- ☆ 読解力の育成
- ☆ 郷土愛の醸成
(社会性・自己肯定感の育成)

- ☆ ICTを活用した授業改善の推進
- ☆ 学習・生活習慣の改善
- ☆ 多様な学びの保障
(不登校等への対策)

- ☆ 就学前教育と義務教育の円滑な接続
- ☆ コミュニティ・スクールの推進

令和5年度当初予算（教育委員会）

（単位：千円）

No.	主要	事業名	概要	予算額	No.	主要	事業名	概要	予算額
1		教育委員会運営費	教育委員会の運営経費（報酬、旅費等）。	4,671	19		主体的な学びの基盤づくり事業	放課後を中心に補充学習を実施する小中学校（29校）に支援員を配置（報酬等）。	6,312
2		事務局職員給与関係費	職員の給与、手当等。	332,478	20	●	きめ細やかな教育体制整備事業	市内小中学校に教師アシスト員と部活動指導員を配置（報酬等）。	10,012
3		事務局運営費（経常）	事務執行に必要な経費（文書委託料、消耗品費、通信運搬費等）。	12,420	21	●	確かな学力向上対策事業	デジタル教材の導入、学校経営アドバイザーの配置、ALT派遣、市費非常勤講師の雇用等の経費。	76,683
4		事務局運営費（臨時）	産休・病休等の代員臨時職員賃金、社保等。	5,483	22		理科教育等設備整備事業	小中学校の理科備品等の計画的な整備（備品購入費）。	1,500
5		事務局施設管理運営費	小中学校施設の維持管理・運営経費（嘱託作業員報酬、設計システム賃借料等）。	3,265	23	●	学校ICT環境整備事業（小学校）	GIGAスクール構想に基づく回線強化や通信料、クロームブックの修繕、ICT支援員派遣等。	50,003
6		学校教育関係費	児童生徒の就学指導及び学事事務、部活動地域移行の研究等に要する経費。	18,587	24	●	学校ICT環境整備事業（中学校）	GIGAスクール構想に基づく回線強化や通信料、クロームブックの修繕、ICT支援員派遣等。	22,786
7		教職員資質向上事業	若手職員資質向上、小中学校連携、人権事業等。	1,962	25		小1グッドスタート支援事業	県費により、30人以上在籍の小学1年のクラスに学級担任等の補助を行う教育支援員を配置。	1,194
8		生徒指導対策事業	いじめ問題への対応や支援（いじめ問題対策連絡協議会委員報酬等）。	93	26	●	小1グッドスタート支援事業（主要事業）	小1グッドスタート教育校支援員配置に伴う経費（報酬ほか）。	1,050
9	●	生徒指導・不登校対策事業	不登校への組織的対応力の向上を図るための登校支援員配置、アドバイザー派遣への費用。	16,720	27		生き活きとした教育活動を支える教師業務アシスタント配置事業	県費により教員の事務作業等の負担軽減のためのアシスタントを配置。	13,342
10		医療的ケア推進事業	日常的に医療ケアが必要な児童生徒に対し、学校に看護師を配置する費用。	3,034	28	●	地域とともにある学校づくり推進事業	学校運営協議会活動費、委員報酬等。	1,749
11		特別支援教育推進事業	特別支援教育推進センターの非常勤相談員報酬や医療的ケア看護師報酬等。	3,632	29		通級による指導におけるICT活用研究事業	県費により通級指導教室でのICT活用に向けての実践検証。	800
12		小中学校教科充実事業（経常）	PC教室PCリース料。武道や音楽の外部指導者による指導充実に係る費用等（謝礼金、修繕料等）。	14,419	30		つやま郷土学推進事業	三津同盟の活動、つやま元氣大賞表彰、津山洋学資料館等の施設や市内企業等の見学等費用。	3,828
13		小学校教科充実事業（臨時）	津山地区教科書用図書採択に関する市町村教育委員会協議会への負担金。	423	1～30 教育総務費 合計				703,358
14		小中学校課外活動費	職場体験活動、学習・発表活動などの課外活動経費。	15,280	31		小学校一般管理費（経常）	電気、ガス、水道利用料等、学校配当予算、校務PCリース料、学校司書等の配置に係る経費。	417,800
15		スクールヘルパー配置事業	障害介助、発達障害、日本語指導等の特別な支援を必要とする児童の支援員報酬等。	58,147	32		小学校一般管理費（経常）	県小学校教育研究会負担金、学校警察連絡協議会負担金等。	646
16	●	特別支援学級充実事業	多人数特別支援学級への非常勤講師配置。きめ細かな指導の実施。	22,134	33		小学校給食管理費（経常）	給食配膳室の運営に係る費用（消耗品等）。	5,292
17		学校教育研究センター関係費	各部会研修会により、教職員の指導力向上を図る（講師謝礼金、会場使用料等）。	423	34		小学校給食管理費（臨時）	橋拡幅工事（高田小）。	7,600
18		学力向上プロジェクト事業	英語指導スーパーバイザー謝礼金等。	928	35		小学校施設管理費（経常）	学校施設の維持管理（軽作業員賃金、修繕料等）。	101,076

令和5年度当初予算（教育委員会）

（単位：千円）

(単位：千円)										
No.	主要	事業名	概要	予算額	No.	主要	事業名	概要	予算額	
36		小学校施設管理費（臨時）	高木管理委託、老朽遊具の更新等（施設整備工事費等）。	11,510	53		中学校特別支援教育就学奨励費	特別支援学級に在籍する生徒の保護者等に学用品や通学用品の費用の一部を支給。	4,711	
37	●	小学校施設整備事業	特別教室の空調設置設計委託料(13小学校)大規模改修(河辺小)、その他改修等の整備費。	541,371	43～53 中学校費 合計					434,766
38	●	放課後児童クラブ施設整備事業	西小児童クラブ棟 解体に伴う外構工事。	6,779	54		幼稚園管理職員給与関係費	職員の給与、手当等。	136,354	
39		小学校教育教材費	教育活動に必要な教材や教材備品費（学校配当予算）。	17,472	55		幼稚園一般管理費（経常）	公立幼稚園2園に共通する運営経費（旅費、遊具点検・バス運行・文書集配・健康診断委託等の経費）。	33,228	
40		小学校遠距離通学補助費	通学のためバス又は鉄道を利用する児童の保護者への補助金支給。	4,955	56		幼稚園一般管理費（臨時）	幼稚園におけるマスク購入等の感染防止予防対策。	1,000	
41		小学校準要保護等児童対策費	経済的理由から就学困難な児童の保護者等に学用品や通学用品、給食費等を支給。	49,647	57		つやま西幼稚園管理運営費（経常）	つやま西幼稚園の運営経費（電気、ガス、水道利用料、修繕料、消防警備委託等及び嘱託医、会計年度任用職員の経費）。	19,704	
42		小学校特別支援教育就学奨励費	特別支援学級に在籍する児童の保護者等に学用品や通学用品の費用の一部を支給。	6,261	58		つやま東幼稚園管理運営費（経常）	つやま東幼稚園の運営経費（電気、ガス、水道利用料、修繕料、消防警備委託等及び嘱託医、会計年度任用職員の経費）。	22,243	
31～42 小学校費 合計				1,170,409	59	●	幼稚園預かり保育事業	公立幼稚園2園において、通常の保育時間終了後、家庭で保育が出来ない場合に預かる経費（会計年度任用職員の経費）。	6,438	
43		中学校一般管理費（経常）	電気、ガス、水道利用料等、学校配当予算、校務PCリース料、学校司書等の配置に係る経費。	184,133	60		幼稚園特別支援対策事業	定住自立圏事業分。職員の給与・手当等、通級指導教室用消耗品費等。	8,567	
44		中学校一般管理費（経常）	県中学校教育研究会負担金、学校警察連絡協議会負担金等。	1,360	61	●	幼稚園ICT整備事業	市立幼稚園2園に保育業務支援システムを導入する費用。	2,482	
45		中学校給食管理費（経常）	給食配膳室の運営に係る費用（消耗品費等）。	1,775	62		幼稚園教育振興費	私立幼稚園連合会への補助。	876	
46		中学校給食管理費（臨時）	給食用配送車駐車場の舗装修繕（津山東中）。	550	54～62 幼稚園費 合計					230,892
47		中学校施設管理費（経常）	学校施設の維持管理（軽作業員賃金、修繕料等）。	42,652	63		つやまっ子家庭教育推進事業	親学講座や子育てワークショップ研修などの実施委託料。	738	
48		中学校施設管理費（臨時）	危険高木管理伐採委託、下水道事業受益者負担金等。	35,972	64		二十歳を祝う会関係費	二十歳を祝う会の開催に要する費用（記念品代、案内状印刷費等）。	1,372	
49	●	中学校施設整備費	特別教室の空調設置設計委託料(3中学校)、校舎、空調など改修等の整備費。	103,627	65		少年団体等育成事業（経常）	子ども会連合会補助金、子どもまつり事業委託料等。	961	
50		中学校教育教材費	教育活動に必要な教材や教材備品費（学校配当予算）。	8,736	66		奨学金を活用した大学生等の定着促進事業	若者定住を促進する奨学金の返還金に対する補助金等。	27,551	
51		中学校遠距離通学補助費	通学のためバス又は鉄道を利用する生徒の保護者等への補助金支給。	2,437	67		鶴山塾管理運営費（経常）	鶴山塾の管理運営に必要な経費（相談員報酬等）。	18,058	
52	●	中学校準要保護等生徒対策費	経済的理由から就学困難な生徒の保護者等に学用品や通学用品、給食費等を支給。	48,813	68		青少年育成センター運営費（経常）	青少年育成の推進、子ども若者育成支援事業に要する経費。	13,643	

令和5年度当初予算（教育委員会）

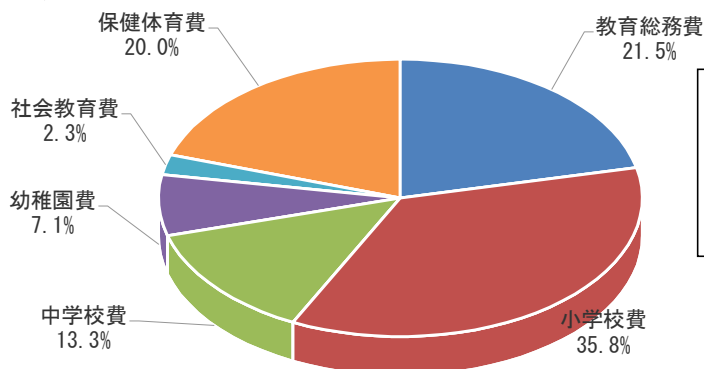
（単位：千円）

No.	主要	事業名	概要	予算額	No.	主要	事業名	概要	予算額
69		青少年育成センター運営費（臨時）	青少年育成の推進、子ども若者育成支援事業に要する経費（講演会講師謝金、リフレット代等）。	701	74		学校給食事業	親子料理教室、給食費未納者督促、学校給食会補助等費用。	3,475
70	●	子ども若者育成相談支援事業	ニートやひきこもり、不登校などの支援事業費等。	1,076	75		小学校保健事業	嘱託医報酬、検査手数料、健康診断（人間ドック）・ストレスチェック委託料等。	48,025
71		健全育成事業（経常）	P T A 連合会事務局経費、プール開放事業補助金等。	4,167	76		中学校保健事業	嘱託医報酬、検査手数料、健康診断（人間ドック）・ストレスチェック委託料等。	19,501
72		放課後子どもプラン推進事業	放課後子ども教室の開設委託料等。	3,445	77		給食センター職員給与関係費	戸島・草加部学校食育センター職員人件費。	51,638
73		地域学校協働本部事業	地域学校協働本部事業の実施に伴う委託料。	5,064	78		給食センター管理運営費（経常）	戸島・草加部学校食育センターに係る運営経費。	515,170
63～73 社会教育費 合計				76,776	79		戸島学校給食センター施設・設備改修事業	戸島学校食育センター施設・設備の改修。	15,179
					74～79 保健体育費 合計				652,988

教育費（教育委員会所管） 合計（千円）

3,269,189

令和5年度教育費の内訳



教育費
令和5年度当初予算
3,269,189千円
令和4年度6月補正時点
2,908,286千円
(昨年度比 112.41%)

令和5年度 津山市磯野計記念奨学金特別会計

令和5年度 津山市奨学金特別会計

（単位：千円）

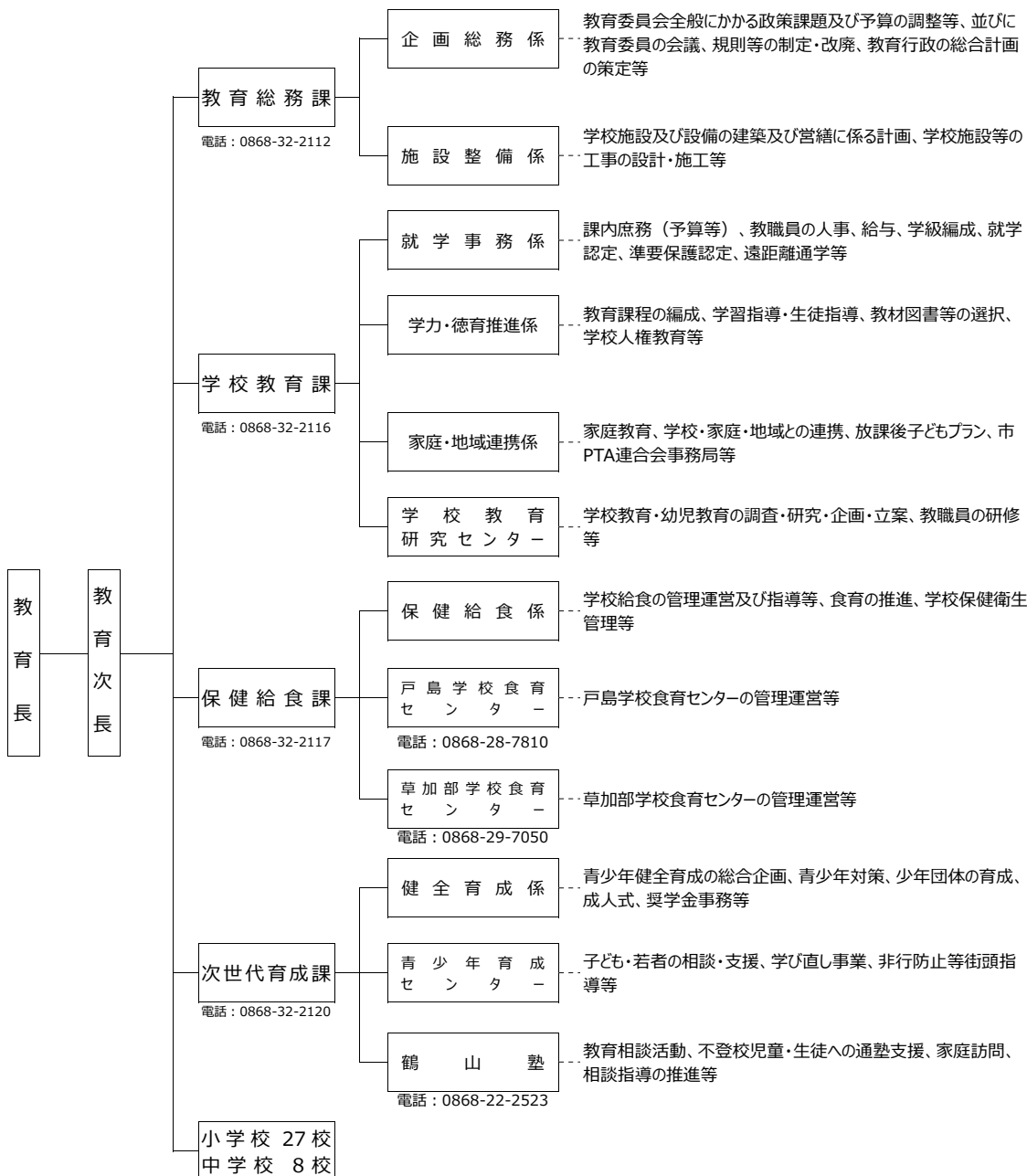
（単位：千円）

No.	主要	事業名	概要	予算額	No.	主要	事業名	概要	予算額
80		奨学金貸付金 合計	大学生等への奨学貸付金等。	6,940	81		奨学金貸付金 合計	高校生、大学生等への奨学貸付金等。	10,004

教育委員会の執行体制

(令和5年4月1日)

<教育委員会事務局>



<補助執行を行う市長部局の部署>

